

平成 30 年 度

新潟市文化財調査概要

新潟市教育委員会



新指定された「新津油田金津鉱場跡」の計量タンク



新指定された「新津油田金津鉱場跡」のC7号井櫓



新指定された「白山公園」の新潟遊園碑



新指定された「白山公園」の蓮池とラジオ塔



新登録された「旧白根配水塔」



新登録された「中原家住宅」



赤漆が塗られた縄文土器（砂崩前郷遺跡）



火起こし体験（弥生の丘展示館）

目 次

I	平成30年度文化財調査概要	
1	文化財保護体制と文化財の現況	1
	(1) 文化財保護体制	
	(2) 平成30年度組織図	
	(3) 文化財の現況	
2	一般文化財	2
	(1) 文化財新規指定・追加指定、有形文化財の国登録文化財の新規登録	
	(2) 第24期新潟市文化財保護審議会	
	(3) 歴史資料の保存	
	(4) 一般文化財の調査、保護、活用	
	① 重要文化財（建造物）旧新潟税関庁舎改修工事	
	② 名勝旧齋藤氏別邸庭園整備基本計画の策定	
	③ 重要文化財（建造物）「旧笹川家住宅」耐震診断事業	
	④ 文化財調査	
	⑤ 動く市政教室	
	⑥ 国W指定記念シンポジウム	
3	埋蔵文化財	18
	(1) 概要	
	(2) 本発掘調査の概要	
	① 前山遺跡	
	② 程島館跡	
	③ 原遺跡	
	④ 川根谷内遺跡	
	⑤ 砂崩前郷遺跡	
	(3) 史跡の保存活用事業	
	(4) 文化財センター活用事業	
II	文化財調査報告	29
	国登録有形文化財「中原家住宅」について	
III	資料	37
1	国・県・市指定文化財、国登録文化財一覧表	
2	区別・ジャンル別文化財件数表	

I 平成30年度文化財調査概要

1 文化財保護体制と文化財の現況

(1) 文化財保護体制

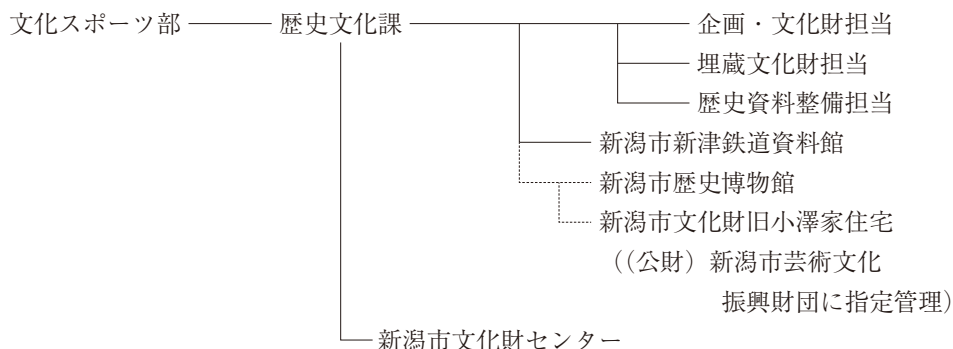
新潟市文化スポーツ部歴史文化課は、課長以下、22名の正規職員、8名の非常勤職員等で構成されている。

平成11年度に教育委員会生涯学習課で所管していた文化財保護事務を市長部局が補助執行することとなり、歴史文化課が誕生した。その後、平成17年の周辺市町村との合併を経て、平成18年4月1日付で、企画・文化財係、埋蔵文化財係、歴史資料係の3係体制となり、平成19年4月1日付で、歴史資料係を組織拡充し、文書館の開設準備に関する事項、公文書分類センターに関する事項を所管する歴史資料整備室を設置した。そして、平成23年4月1日付で、歴史文化課所管の新潟市埋蔵文化財センターを、埋蔵文化財及び有形民俗文化財を保存し活用する施設として、西区木場に新築移転し課相当の機関「新潟市文化財センター」とした。平成24年4月1日付で新津鉄道資料館に関する事項が分掌事務に追加され、施設の管理運営を開始した。平成28年4月1日付で歴史資料整備室を歴史資料整備担当に改組した。平成30年4月1日付で新潟市文化財センターは、課相当の機関から準課相当の機関に改組した。職員は現在所長以下12名の正職員と6名の非常勤職員である。

また、各区役所地域総務課等が各区の文化財に関する業務を所管し、区役所に設置される一部の機関（北区郷土博物館、西蒲区巻文化会館、潟東ゆう学館）も文化財に関する業務を所管している。さらに必要に応じて、地区公民館の職員に各区地域総務課等の併任発令を行い対応している。

市内の歴史文化施設の所管については、新潟市文化財センター、新潟市新津鉄道資料館、新潟市歴史博物館（旧新潟税関庁舎等含）は歴史文化課で所管し、それ以外は区役所が所管している。

(2) 平成30年度組織図



(3) 文化財の現況

平成30年度、新潟市内の文化財新規指定は次のとおりである。

国 新規指定 2件「史跡新津油田金津鉾場跡」、「名勝白山公園」

平成31年3月31日現在、市内に存する指定文化財は計322件（国21件、県40件、市261件）、国登録文化財は34件である。

文化財の件数（区別の件数、種類別の件数）と、指定文化財及び登録文化財の一覧表は「Ⅲ 資料」として37頁以降に掲載している。

2 一般文化財

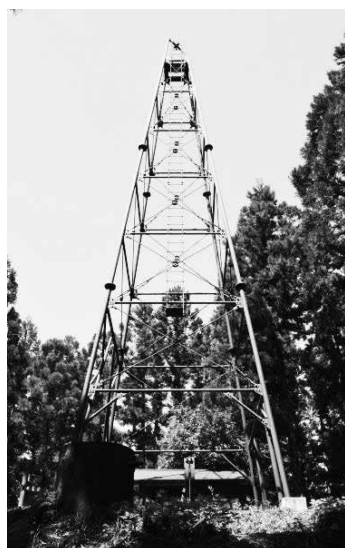
(1) 文化財新規指定・追加指定、国登録文化財の新規登録

① 文化財新規指定

ア 国史跡新津油田金津鉦場跡

- (ア) 指 定 名 称 新津油田金津鉦場跡
 (イ) 種 別 史跡
 (ウ) 指定年月日 平成30年10月15日
 (エ) 告 示 番 号 文部科学省告示第189号（官報：平成30年10月15日付・号外226号）
 (オ) 所 在 地 新潟市秋葉区金津字居村599番1ほか
 (カ) 面 積 78,639.41平方メートル
 (キ) 年 代 明治7（1874）年～平成8年（近代の採掘期間）
 (ク) 沿革と建物の特徴・・・文化庁報道発表から

明治7年（1874）から平成8年（1996）まで操業が継続した、近現代の石油の採掘・精製に関わる施設である。鉦場跡は新潟市中心部の南方約15kmに広がる新津丘陵の一角に所在する。同丘陵一帯では江戸時代既に採油事業が行われていたが、幕末に名主職と採油業を受け継いだ中野貫一（弘化3年<1846>～昭和3年<1928>）が、日本坑法に基づく採掘権を得て採油を始めた。当初は手掘りであったが、その後、上総掘り、綱式機械掘りを採用して事業を軌道に乗せた。明治40年（1907）頃、ポンピングパワー方式を導入して採油事業を拡大し、日本石油・宝田石油といった大手企業に次ぐ産油規模となった。鉦場跡には、上総掘り井戸、機械掘り井戸といった油井遺構をはじめ、採油の動力源であるポンピングパワー（大正7年）及び上屋（大正9年）が現存する。そのほか、動力を伝える継転機、集油所（明治40年頃）、送油所（大正6年）、各種タンク、加熱炉（昭和43年頃）、濾過池、旧木工所（大正13年頃）等が残る。我が国を代表する新津油田の一翼を担い、約120年間操業を継続した施設であり、採油から精製までの一連のシステムが良好に残る。我が国近代のエネルギー産業の発展を知る上で重要である。



C7号井櫓



ポンピングパワー

イ 名勝白山公園

- (ア) 指 定 名 称 白山公園
 (イ) 種 別 名勝
 (ウ) 指定年月日 平成30年10月15日
 (エ) 告 示 番 号 文部科学省告示第190号（官報：平成30年10月15日付・号外226号）
 (オ) 所 在 地 新潟市中央区一番堀通町1番2、新潟市中央区一番堀通町1番5

- (カ) 面 積 16,959.00平方メートル
 (キ) 年 代 明治6（1873）年～
 (ク) 沿革と公園の特徴・・・文化庁報道発表から

新潟市の市街地中心部に位置する。新潟総鎮守白山神社に隣接し、元々は白山神社の境内地であった。明治5年（1872）に県令として着任した楠本正隆によって造営が開始されたこの地は、信濃川越しに弥彦山や角田山、越後山脈を望む景勝地であり、以前から白山祭などでにぎわう新潟町民の行楽の場でもあった。明治6年（1873）に国内最初の都市公園の一つとして認可され、人々の憩いの場、集会等の場として利用されてきた。東に「瓢箪池」、西に「蓮池」が造られ、瓢箪池と蓮池の間には明治11年（1878）に明治天皇の新潟巡幸に合わせて造られた「美由岐賀岡」という築山がある。随所に景石や石燈籠を設置しているほか、造営の由来を示す「新潟遊園碑」をはじめ、多くの石碑が建つ。また、マツ類、ウメを中心に、ツツジ類、フジ類の樹木が植えられている。白山公園は明治初期に造られ、その後空間構成を大きく変えることなく、現在まで維持されており、日本公園史における学術上の価値、鑑賞上の価値が高いことから、名勝に指定し保護するものである。



楠本正隆像



ひょうたん池の噴水とちがいはり橋

② 文化財追加指定

ア 国史跡旧新潟税関

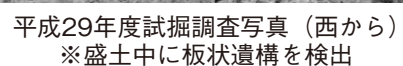
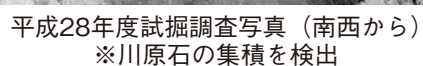
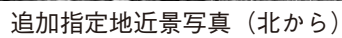
- (ア) 指 定 名 称 旧新潟税関
 (イ) 種 別 史跡
 (ウ) 指定年月日 昭和44（1969）年6月20日（史跡指定）／昭和55（1980）年2月19日（追加指定）
 平成30年10月15日（追加指定）
 (エ) 告 示 番 号 文部省告示第295号／文部省告示第19号
 文部科学省告示第195号（官報：平成30年10月15日付・号外226号）
 (オ) 所 在 地 新潟市中央区緑町3437番地8外5筆
 （うち直近の追加指定地は3437番6及び7）
 (カ) 面 積 9,991.06平方メートル（うち直近の追加指定地は1,044.62平方メートル）
 (キ) 年 代 明治2（1870）年～
 (ク) 追加指定について・・・文化庁報道発表から

安政五か国条約に基づき明治元年（1869）開港した新潟に置かれた運上所（税関）で、明治2年建築の庁舎が現存する。我が国近代の外交・貿易を知る上で貴重。今回、荷揚場遺構、造成盛土に伴う地業と考えられる遺構が見つかった部分を追加指定する。

※注：重要文化財（建造物）旧新潟税関庁舎改修工事（本書11～13頁参照）において、防火用貯水槽・ポンプ室設置予定地を試掘調査（平成28年8月31日及び平成29年9月7・8日実施）したところ、護岸に関わる可能性のある川原石の集積や、税関築造当時の盛土中に設置された板状遺構が検出された。

調査対象地は旧新潟税関竣工時からその敷地の一部を構成していたものの、昭和16（1941）年に民間へ払い下げとなり、長らく工場用地として利用された。平成6年に

上述の試掘調査結果を受け、文化庁と協議の結果、防火用貯水槽・ポンプ室設置については遺構を保全する設計とすること、また設置対象地を史跡として追加指定することを条件に認められたものである。



③ 国登録文化財の新規登録

文部科学大臣は、平成30年5月10日付けで、文化財保護法第57条第1項の規定により、以下の有形文化財（建造物）を文化財登録原簿に登録した（文部科学省告示第75号）。

ア 旧白根配水塔

- | | |
|------------|--|
| (ア) 名称及び員数 | 旧白根配水塔 1棟 |
| (イ) 登録年月日 | 平成30年5月10日 |
| (ウ) 登録番号 | 第15-0478号 |
| (エ) 所在地 | 新潟市南区上下諏訪木字川原10-1 |
| (オ) 建設年代 | 昭和8（1933）年 |
| (カ) 構造・形式等 | 鉄筋コンクリート造（内部4階建）、金属板葺、直径8.1m、高さ26m |
| (キ) 登録理由 | 国土の歴史的景観に寄与しているもの |
| (ク) 図版・所見 | 図版作成：新潟市南区役所建設課
所見：長岡造形大学 建築環境・デザイン学科 教授 平山育男 |

(ケ) 沿革と建物の特徴

昭和6（1931）年5月の白根町大火を契機として建設された上水道施設の配水塔で、中ノ口川右岸、国道460号富月橋下流に立地し、川縁からは約50mの距離に所在する。配水塔の有効容積は100 m^3 となる。円筒状の躯体頂部に円筒形の貯水槽を置き、円錐形の屋根をかける。内部は吹き抜けで、階段と梯子を設けて貯水槽外周を廻るベランダに至る。3階上部にはロンバルトバンドの意匠による装飾がある。

計画顧問は茂庭忠次郎、主任技師は三浦正義、工事請負は武田組である。設計者は不詳であるが、武田組の工事請負によって昭和8（1933）年に完成した大崎浄水場（現三条市）で設計を担当した長谷川龍雄が関与した可能性が指摘されている。

配水塔は昭和6（1931）年7月に起工し、昭和7（1932）年2月に仮通水があり、昭和8（1933）年3月には工事費166,145円で工事が完了した。白根町大火からの復興を祝して同年4月に上水道通水式が挙行された。当初の計画では給水人口8,000人、1人1日最大給水量を150 ℓ 、1日最大給水量を1,200 m^3 とされたが、昭和36（1961）年には1日最大給水量を4,100 m^3 とする第1回拡張工事が実施され、隣接する味方村への給水のため、昭和38（1963）年には1日最大給水量を7,100 m^3 とする第2回拡張工事が実施された。

昭和48（1973）年12月に現在の戸頭浄水場が完成したため、浄水場施設は廃止となり、配水塔を含む跡地の一部が公園として整備された。



旧白根配水塔 外観全景



旧白根配水塔 2階内部

イ 中原家住宅

- | | |
|------------|--|
| (ア) 名称及び員数 | 中原家住宅主屋、中原家住宅離れ、中原家住宅表門及び塀、中原家住宅裏門及び塀、中原家住宅煉瓦塀 4棟および1基 |
| (イ) 登録年月日 | 平成30年5月10日 |

- (ウ) 登 録 番 号 第15-0479号～第15-0483号
 (エ) 所 在 地 新潟市西区赤塚4386他
 (オ) 建 設 年 代 万延元（1860）年～昭和10（1935）年頃／昭和前期改修
 (カ) 構造・形式等

名 称	構造・形式等	建設年代
中原家住宅主屋	木造平屋建、瓦葺、建築面積 386㎡、塀付	万延元（1860）年（棟札あり）／昭和前期改修
中原家住宅離れ	木造平屋建、瓦葺、建築面積 69㎡	大正前期
中原家住宅表門及び塀	【表門】 木造、金属板葺、間口 3.2m 【塀】 木造、金属板葺、総延長 69m	昭和10（1935）年（野地板裏に墨書銘あり）
中原家住宅裏門及び塀	【裏門】 木造、銅板葺、間口 2.8m 【塀】 木造、金属板葺、総延長 63m	昭和10（1935）年頃
中原家住宅煉瓦塀	煉瓦造、延長 51m	大正前期

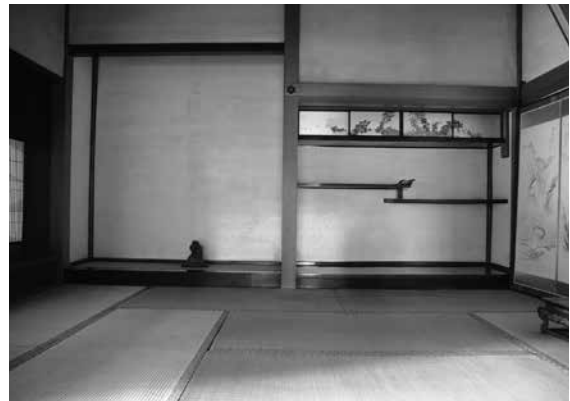
- (キ) 登 録 理 由 国土の歴史的景観に寄与しているもの
 (ク) 図 版 ・ 所 見 新潟大学工学部 建設学科 建築学講座 准教授 黒野弘靖 ほか学生
 (ケ) 沿革と建物の特徴

旧北国街道沿いに敷地を構える大規模民家で、明治11（1878）年9月の明治天皇北陸巡幸の際に行在所となった。中原家は幕末に庄屋、近代以降は赤塚村長を務めた地主である。敷地中央に建つ主屋は、入母屋造りの大屋根が雄大な外観をもつ。内部は前後二列計9室を配し、上手に上段の間、二の間、三の間からなる座敷を設ける。離れは、座敷2室と小部屋からなり、主屋の上手奥に渡り廊下で接続する。正側面を全面ガラス戸として開放的にするなど近代住宅の特徴を示す。

敷地の周囲には明治天皇行巡幸60周年を記念して昭和初期に整備された表門や裏門、塀が残り、品格ある旧街道の景観を演出している。隣地境を区切る煉瓦塀は、明治42（1909）年の赤塚大火を契機として延焼防止用に大正前期に建設されたと伝わっており、10連アーチの重厚かつ丁寧なつくりで庭の添景ともなっている。



中原家住宅 主屋 入口外観（新潟大学工学部提供）



中原家住宅 主屋 上段の間（新潟大学工学部提供）

(2) 第24期新潟市文化財保護審議会

① 委員名簿

(任期：平成30年6月1日～令和2年5月31日、役職は平成31年3月31日現在)

役職	氏名	所属・職名等	専門分野等
会長	森田 龍義	新潟大学名誉教授	記念物（植物）
副会長	橋本 博文	新潟大学人文学部教授	記念物（史跡）、有形文化財（考古資料）
委員	岩田多佳子	新潟市芸術文化振興財団嘱託	有形文化財（絵画・美術工芸品）
委員	小田 節子	元新潟市立内野中学校教諭	無形民俗文化財（邦楽）
委員	加賀谷真梨	新潟大学人文学部准教授	有形・無形民俗文化財
委員	栗田 裕司	新潟大学理学部准教授	記念物（地質鉱物・石油地質）
委員	黒野 弘靖	新潟大学工学部准教授	有形文化財（建造物）
委員	中村 元	新潟大学人文学部准教授	有形文化財（歴史資料〔近現代史〕）
委員	原 直史	新潟大学人文学部教授	有形文化財（歴史資料〔近世史〕）
委員	松岡久美子	近畿大学文芸学部准教授	有形文化財（彫刻・美術工芸品）
委員	山崎 誠子	日本大学短期大学部准教授	記念物（名勝）

② 会議の概要

今年度は1回の会議を開催した。会議の概要は次のとおりである。

第24期第1回会議

期日：平成30年7月6日

会場：市役所本館第2委員会室

内容：

【議 事】

会長・副会長の選出

【報告事項】

(ア) 旧新潟税関庁舎工事予定及び国史跡旧新潟税関の追加指定について

(イ) 白山公園の国名勝指定答申について

(ウ) 新津油田金津鉱場跡の国史跡指定答申について

(エ) 旧齋藤氏別邸庭園保存整備事業について

(オ) 旧笹川家住宅保存整備事業について

第1回会議では、会長・副会長の選出を行った。また、平成30年6月15日に、文化審議会より、史跡新津油田金津鉱場跡と名勝白山公園に国の文化財指定の答申が出されたこと、また、史跡旧新潟税関に追加指定の答申が出されたこと、これまでの経緯と今後の指定（官報告示）予定及び活用予定について説明した。史跡旧新潟税関については、追加指定と合わせて、旧新潟税関庁舎の保存整備事業における工事進捗状況を説明・報告した。

また、平成30年度からの新規事業として、旧齋藤氏別邸庭園と旧笹川家住宅の保存整備事業の概要報告を行った。旧齋藤氏別邸庭園について、今年度は、保存整備検討委員会を開催し、今後の整備の方向性や内容を具体化するため『整備基本計画』を策定することと事業全体のスケジュールについて説明を行った。旧笹川家住宅については、今年度から3か年で耐震診断を行い、その後の耐震補強工事や整備工事へ繋げていくことや最近の積雪と強風によるき損状況を報告した。すべての案件について、委員から質疑応答及び意見聴取を行った。

(3) 歴史資料の保存

① 歴史情報発信事業

ア 「新潟市歴史資料だより」の刊行

イ 『図説 新潟開港150年史』の刊行

新潟開港150周年を記念し、『図説 新潟開港150年史』を刊行した。A4判カラー全128ページとし、開港以前の湊町新潟の様子や、開港から現在にいたるまでの新潟港の歴史をたどる内容とした。執筆は新潟市歴史博物館に委託した。

ウ 歴史講座「古資料が語る新潟の歴史」の開催

平成30年度は、新潟開港150周年を記念して、「湊・港・みなとまち」をテーマにした講座を次表のとおり万代市民会館で開催した。全3回で、のべ372名の市民から参加をいただいた。

回	開催日	講 義 名	講 師
第1回	9月1日 (土)	新潟築港と近代的港湾都市の形成	稲吉 晃 (新潟大学法学部准教授)
		写真・地図・絵図でたどる新潟港のあゆみ	小島 成生 (新潟市歴史文化課)
第2回	9月8日 (土)	雑居地新潟と外国人	青柳 正俊 (新潟県立近代美術館副館長)
		幕末維新期における新潟港の水深図を読む —「信濃川滯筋水戸迄測量絵図」と ILE SADO ET CANAL DE NIEGATA—	長谷川 伸 (新潟市歴史文化課)
第3回	9月28日 (土)	近世から近代の新潟の回船問屋	横木 剛 (新潟郷土史研究会理事)
		「新潟表記録」にみる新潟奉行の異国船対策 —新発田藩への援兵依頼を事例として—	高原 雅美 (新潟市歴史文化課)

エ 歴史講座「古資料が語る新潟の歴史」特別編の開催

「図説 新潟開港150年史」の刊行と、白山公園の国名勝指定を記念して、歴史講座の特別編を万代市民会館で開催した。180名の市民から参加をいただいた。

回	開催日	講 義 名	講 師
特別編	12月1日 (土)	「廻船から汽船へ ～明治前・中期の新潟港～」	伊東 祐之 (新潟市歴史博物館長)
		「白山公園の歴史とその魅力」	小島真由美 (新潟市歴史文化課)
		座談会「開港地新潟を語る」	伊東 祐之 (新潟市歴史博物館長) 小島真由美 (新潟市歴史文化課) 長谷川 伸 (新潟市歴史文化課)

オ 「新潟市のあゆみ」各区の歴史講座の開催

区制移行10周年記念事業として平成28年に刊行した『新潟市のあゆみ』（増補改訂版）を用いて、平成28年度から「新潟市のあゆみ 各区の歴史」講座を開催している。平成30年度は次表のとおり開催した。2会場で計277名の市民から参加をいただいた。

回	開催日	会 場	テ ー マ	担 当
中央 区	7月29日 (日)	万代市民会館	港とともに発展を続ける“みなとまち” ～中央区の歴史の概要～	田中 良成 (新潟市歴史文化課)
			新潟湊と水戸教 ～水戸教関係資料を読む～	高野まりい (新潟市歴史文化課)
東 区	2月23日 (土)	東区プラザ	信濃川・阿賀野川が作りだした東区の あゆみ～東区の歴史の概要～	田中 良成 (新潟市歴史文化課)
			江戸時代の絵図から読み解く通船川の 歴史	高野まりい (新潟市歴史文化課)

カ 市政さわやかトークをととしての新潟市の歴史の紹介

市民からの要望に応じて、歴史資料整備担当職員が出向いて各地域の歴史などを解説した。平成30年度は、市内10か所で計10回、のべ478名の市民に講義を行った。

キ 自治体史等の販売

『新潟市史』及び『黒埼町史』のほか合併旧市町村の市町村史、及び『図説 新潟開港150年史』を販売した。

ク 市内の学校等の歴史学習・総合学習への協力

新潟県警察学校、新潟市立新潟小学校等へ職員を派遣し、新潟市や地域の歴史について講義や情報提供を行った。



歴史講座「古資料が語る新潟の歴史」



歴史講座「古資料が語る新潟の歴史」特別編



「新潟市のあゆみ」講座 中央区の歴史



「新潟市のあゆみ」講座 東区の歴史

② 地域資料調査収集事業

ア 歴史資料の所在確認調査

平成17年度より、合併市町村の主な民間所蔵資料の現状確認調査を実施している。これに加えて、平成25年度からは『新潟市合併町村の歴史』『新潟市史』編さん時代に調査ののち、およそ20年以上経過している資料を中心に、平成30年度は市内各所で計9か所の調査を実施した。

イ 歴史的公文書の引き継ぎ

平成6年度より、廃棄公文書の中から歴史的価値のある文書を、選別して歴史的公文書として引き継ぎ保存している。平成30年度は、紙媒体で38点、電子媒体で34点、文書保存箱にして14箱を引き継いだ。

ウ 歴史資料の整理

平成30年度は、東区海老ヶ瀬・高橋家文書、中央区旧大和デパート増改築資料、中央区古町通・吉野家文書、江南区横越・市村家文書、秋葉区大安寺・坂口家文書、西区五十嵐東・伊藤家文書、西区五十嵐二の町・山下家資料、西区浦山・加藤功氏収集資料、横浜市・平本昇氏収集新潟地震写真資料、延岡市・山内利秋氏収集新潟地震写真資料の整理及び目録作成を行った。

エ 歴史資料の公開、閲覧、複写

平成30年度は、閲覧249件、複写215件、掲載48件の合計512件の一般利用があった。

オ 寄贈資料の受入

平成30年度は、中央区関屋本村の高橋和彦氏、中央区古町の古町市街地再開発組合、横浜市の平本昇氏、秋葉区大安寺の坂口日出雄氏、秋葉区西古津の吉野文威氏、宮崎県延岡市の山内利秋氏、西区浦山の加藤功氏からの寄贈があった。

③ 歴史的公文書保存事業

ア 公文書分類センターの利用管理

公文書分類センターの収蔵率が高くなったため、保存期間超過文書を廃棄し、一部の文書について収蔵場所をセンター間で移動させるなどの処置を行った。主に味方・岩室・新津公文書分類センターの文書箱の所在について、棚所在図、棚見取り図、文書箱リスト等の作成によって、各課利用の利便を図った。

イ 資産税関係文書の整理

横越公文書分類センターで、新規に移管を受けた資産税関係文書（更正図・土地台帳）の整理を行っている。平成30年度は小須戸地区297点、黒埼地区100点の更正図、小須戸地区22点の土地台帳の目録作成・更新作業を行った。

④ 加盟団体研修会等への参加

独立行政法人国立公文書館、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会、新潟県歴史資料保存活用連絡協議会の研修会に参加した。新潟県歴史資料保存活用連絡協議会の歴史資料保存活用研修のほか、富山県歴史資料保存利用機関連絡協議会の平成30年度歴史資料実務担当者研修会、広島県市町村公文書等保存活用連絡協議会の平成30年度行政文書・古文書保存管理講習会では、職員が研修講師を務めた。

(4) 一般文化財の調査、保護、活用

① 重要文化財（建造物）旧新潟税関庁舎改修工事

ア 文化財の概要

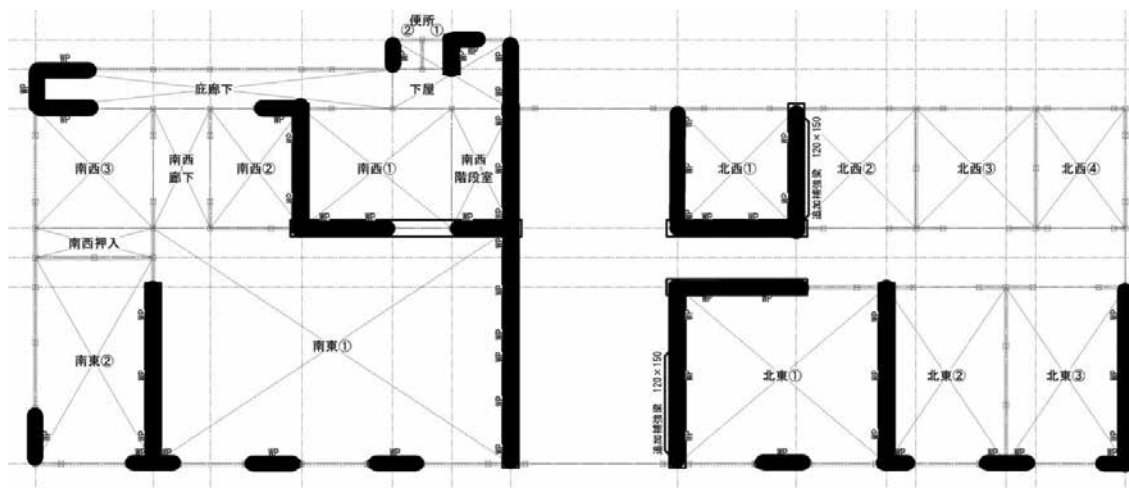
名 称	重要文化財（建造物）旧新潟税関庁舎
構造・形式等	木造、延床面積 390.1㎡、一階建、棧瓦葺、中央塔屋付、銅板葺
建築年代	明治 2（1869）年
所在地	新潟市中央区緑町 3437 番地 8
所有者	国（文部科学省）
管理団体	新潟市
指定年月日	昭和 44（1969）年 6 月 20 日（文部省告示第 294 号）

イ 経 緯 平成26・27年度に文化庁の国庫補助事業として実施した耐震診断により、具体的な耐震対策案が策定された。これに基づき、平成28年度に耐震補強（基礎）工事が完了した。平成30年度は、前年度末に着手した建物自体の耐震補強（構造）及び保存修理工事、防災設備改修工事を並行して実施し、予定どおり平成30年11月末に完了した。

ウ 事業内容

- (ア) 工事名称 重要文化財旧新潟税関庁舎改修工事（耐震補強・保全工事、防災設備改修工事）
- (イ) 事業主体 新潟市（文化庁の国庫補助金を受けて実施）
- (ウ) 工事組織 設計監理：公益財団法人文化財建造物保存技術協会
施工：株式会社田中組
- (エ) 工事期間 平成30年 2 月15日～11月30日
- (オ) 主な工事の内容

工事種類		主な工事の内容
耐震補強（構造）工事		【壁補強】 建物壁内側に構造用合板を埋込み、軸部接合部は金物で補強 【水平構面補強】 小屋裏に鋼製の耐震ブレースを設置 【塔屋補強】 板壁に木枠付補強合板を取付、柱脚部と小屋梁を金物で緊結
保存修理工事		【屋根工事】 箱棟腹板瓦の漆喰塗替え、瓦の一部葺替え、目地漆喰塗り 【左官工事】 内外部の漆喰壁・海鼠壁の破損部分の補修、塗替え 【雑工事】 鎧戸・建具等木部の補修・塗替え、外面貼石欠損部の補修等
防災設備改修工事	消火設備・自動火災報知設備工事	旧防火水槽…………… 1 基（撤去） 貯水棟（含ポンプ室、水槽容積 78.7㎡、延床面積 54㎡）…………… 1 棟（新設） 電動式消火用ポンプ（1,500ℓ／分、37kw 以下）…………… 1 基（新設） 屋外非常用発電機（200V 50Hz、75kVA 以上）…………… 1 基（新設） 自動回転ボール式放水銃（単口式、双口式）…………… 2 基（新設） 屋内消火栓（管理棟内）…………… 1 基（撤去） 屋内消火栓（易操作性 1 号、旧新潟税関庁舎内）…………… 2 基（更新） 屋外消火栓（易操作性 1 号）…………… 2 基（新設）
		光電式煙感知機（貯水棟内ポンプ室）…………… 1 個（新設） 自動火災報知機受信機 P 型 2 級（貯水棟内ポンプ室）…………… 1 台（新設）
	監視設備工事	屋外監視カメラ…………… 6 台（新設） 屋外炎検知器（赤外線 3 波長）…………… 5 台（新設） 屋外機器設置ポール…………… 1 基（新設） 監視カメラデジタルレコーダー（システム本体）…………… 1 台（新設） 監視カメラ制御 PC（歴史博物館本館警備室、管理棟）…………… 2 台（新設） ※このほか給排水及び電気配管工事、植栽撤去工事、家屋調査を実施



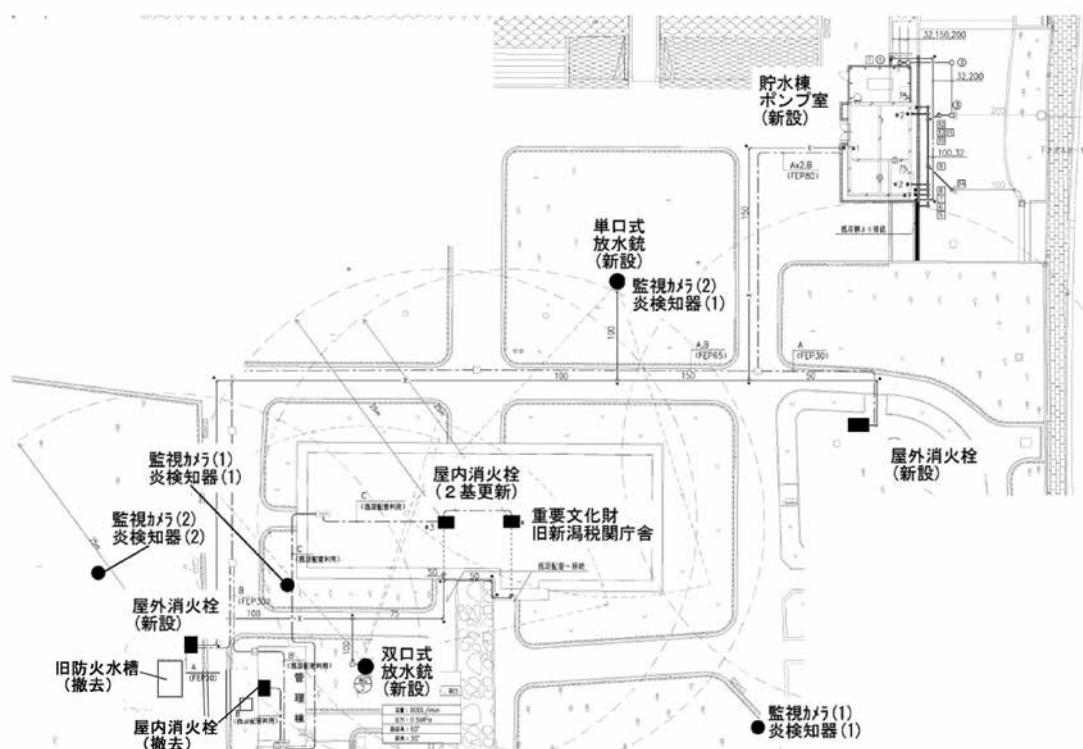
壁補強平面図 ※上図の太線の壁の内側に構造用補強合板が埋め込まれている



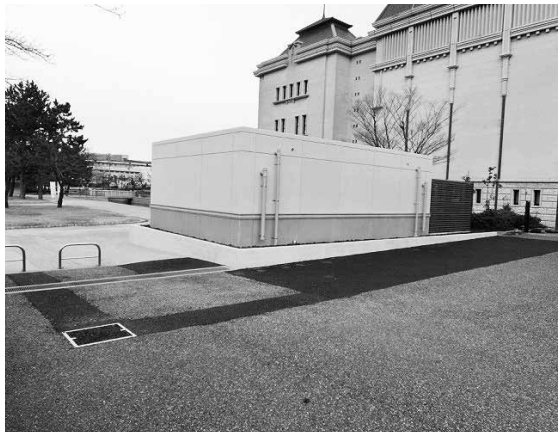
壁内部への構造用補強合板の打ち付け作業



小屋裏に設置された水平構面補強用鋼製耐震ブレース



防災設備配置図 ※更新・新設した防災設備のうち主な消火設備の配置のみを示した。



史跡景観に配慮した貯水棟（ポンプ室を含む）

東側の放水銃（監視カメラと炎検知器をポールに設置）

エ 平成30年度 第1回工事現場公開・説明会

- （ア）公開日時 平成30年5月6日（日）10：00～15：00
工事説明会10：30～11：20、13：30～14：10（全2回実施）
- （イ）事業名 旧新潟税関庁舎改修工事現場公開・説明会（平成28年度工事の概要）
- （ウ）主催等 新潟市歴史文化課（協力：新潟市公共建築第一課、株式会社田中組）
- （エ）のべ参加者 157人

オ 平成30年度 第2回工事現場公開・説明会

- （ア）公開日時 平成30年11月11日（日）10：00～15：00、説明会11：30～12：00
- （イ）事業名 2018新潟開港150周年 一旧新潟税関庁舎耐震補強工事—
（「公共建築の日及び公共建築月間」の中の事業として実施）
- （ウ）主催等 新潟市公共建築第一課（協力：株式会社田中組、一般社団法人新潟市建設業協会青年部、新潟市歴史文化課）
- （エ）のべ参加者 20人

カ 竣工式等

- （ア）開催日時 平成31年1月12日（土）
祝賀会式典10：15～10：30、関連行事9：30～16：00
- （イ）事業名 新潟開港150周年事業「旧新潟税関庁舎再公開記念イベント」
行事内容：祝賀会式典・鏡開き、塔屋特別公開、振る舞い酒、「旧新潟税関庁舎と史跡」展開催、もちつき（3回）、木製ストラップ配布、ペーパークラフト&砂絵作り、常設展示ガイド&クイズラリー
- （ウ）主催等 新潟市歴史文化課、新潟市歴史博物館（協力：みなとぴあボランティア）
- （エ）のべ参加者 2,457人

② 名勝旧齋藤氏別邸庭園整備基本計画の策定

計画の概要

- ア 計画策定年月日 平成31年3月15日
- イ 計画策定者 新潟市教育委員会
- ウ 計画策定の体制と検討内容

名勝旧齋藤氏別邸庭園の整備基本計画策定にあたり、「名勝旧齋藤氏別邸庭園保存整備検討委員会」（以下「検討委員会」という。）を設置した。事務局を文化スポーツ部歴史文化課とし、庭園及び建造物の学識経験者4名で委員を構成した。会議は全3回開催した。次頁の本計画の検討組織の所属は、平成31年3月現在である。

検討委員会での開催経過

	開催日	内 容
第 1 回	平成 30 年 8 月 10 日	○委員長選出 ◆協議事項 (1) 事業及び委員会スケジュールと計画書構成案 (2) 庭園課題の整理と基本方針 (3) 全体計画と庭園課題箇所の個別計画 (4) 庭園空間構造分析（視点場等分析） (5) 公開活用計画と動線計画 (6) 建造物の課題整理と修理方針 ○現地視察
第 2 回	平成 30 年 10 月 15 日	◆協議事項 整備基本計画素案の確認、検討
第 3 回	平成 30 年 12 月 14 日	○現地視察 ◆協議事項 (1) 建造物に関する整備計画検討 (2) 庭園に関する整備計画検討

「名勝旧齋藤氏別邸庭園保存整備検討委員会」委員

氏 名	所 属 等	役 割
栗野 隆	東京農業大学准教授、元旧齋藤氏別邸庭園保存活用計画検討委員会委員	委員長
金出ミチル	長岡造形大学非常勤講師、同上委員	
松本 恵樹	春秋設計工房代表（作庭者松本亀吉子孫）、同上アドバイザー	
山崎 誠子	日本大学短期大学部准教授、新潟市文化財保護審議会委員	

アドバイザー：文化庁文化財第二課名勝部門文化財調査官 青木達司

オブザーバー：新潟県教育庁文化行政課主任調査員 長岡大



第 1 回委員会（別邸ボランティア室）の様子



名勝旧齋藤氏別邸庭園整備基本計画冊子

③ 重要文化財（建造物）「旧笹川家住宅」耐震診断事業

ア 文化財の概要

名 称	重要文化財（建造物）旧笹川家住宅（表座敷及び台所ほか全11棟）
構造・形式等	木造、延床面積1,789.7㎡、一階建及び二階建、銅板葺及び棧瓦葺
建築年代	江戸時代後期〔文政3（1820）年～慶応3（1867）年〕、明治時代
所在地	新潟市南区味方216番地
所有者	新潟市（南区役所地域総務課）
指定年月日	昭和29（1954）年3月20日、昭和53（1978）年5月31日、平成3年5月30日

イ 経緯 平成27・28年度に策定した『重要文化財旧笹川家住宅保存活用計画』に基づき、今後の耐震補強の方向性を決定するべく、文化庁国庫補助事業として耐震基礎診断を実施した。

ウ 事業内容

- (ア) 事業名称 平成30年度重要文化財旧笹川家住宅耐震診断業務委託
- (イ) 事業主体 新潟市（文化庁の国庫補助金を受けて実施）
- (ウ) 委託業者 公益財団法人文化財建造物保存技術協会
- (エ) 事業期間 平成30年6月18日～平成31年3月26日
- (オ) 業務内容 構造調査及び構造検討用実測図作成、地盤調査（機械ボーリング1箇所、スウェーデン式サウンディング15地点、ハンドオーガーボーリング3地点、標準貫入試験1地点）、報告書作成

④ 文化財調査

平成30年度 有形文化財調査（絵画、書跡・典籍等）

ア 年月日 平成30年8月28日（火）

イ 調査者 新潟市文化財保護審議会 岩田多佳子委員
調査補助 歴史文化課 入江清次

ウ 訪問先 中原家（西区赤塚）

赤塚は、新潟と弥彦間の宿場で、参勤交代や江戸―佐渡奉行所の往来コースからは外れていたが、時に大名が宿泊する場合は、中原家の屋敷が本陣に当てられたという。

明治11（1878）年明治天皇北陸巡幸の際は、9月16日朝、弥彦を出発して新潟へ向かう途中、行在所に指定され、中原邸で昼食をとられた。

中原邸（建物）の調査の結果、万延元（1860）年の棟札が見つかり、主屋の建築年が判明した。

中原邸の座敷は奥から、明治天皇御座の間である一の間（上段の間、十畳）、二の間（十畳）、三の間（十二畳）となり、上段の間、二の間は中庭に面して廊下があり、上段の間は廊下側に書院窓がある。

行田魁庵の襖絵は、三の間の奥に向かって正面と右側、二の間の正面（上段の間との仕切り）、背面（三の間との仕切り）に描かれている。

○ 三の間…襖絵 群鶴図 寸法：各 タテ169.1×ヨコ105.6cm 正面、右側とも各四枚。印のみ「行田隆印」「魁庵」。鶴が描かれているため、「鶴の間」と称される。正面の襖には、池畔に群鶴、右側には飛鶴が描かれている。鶴が次々に訪れ、池の畔に降りたち、くつろいで過ごしている様子を描く。鶴に象徴される吉祥が舞い降りる、訪れる様子を、外から内へと導く動線として描く。墨画淡彩で、鶴の羽には胡粉を施し、背景に砂子で金雲を描く。

○ 二の間…襖絵 富士海浜図 寸法：各 タテ169.1×ヨコ105.6cm 各四枚

正面の上段の間との仕切り側に、富士図、三の間側仕切りに帆船の浮かぶ海浜を描く。富士図は、墨画に金雲をあしらう。印のみ「行田隆印」「魁庵」。

一の間側欄間は、魁庵の「蝶に小禽図」（印「正隆」）が透かし彫りされた板（一部欠損）がはめられている。

○ 一の間（上段の間）…脇床天袋 松川籐陰 白菊葉鶏頭図 金絹地着色

寸法：タテ23.7×ヨコ50.0cm。落款：右端 七十八翁籐陰松川厚 □印 □印 左端 □印

【行田魁庵 なめた・かいあん】 文化9（1812）年－明治7（1874）年

新潟町神明町、神明宮神官の家に生まれる。名を正隆、明治5（1872）年に降正泰とする。新潟町の志賀北洋に就き、北崖と号す。のち親戚でもある三条・行田雲涛門に入る。雲涛はその才を愛し、京で自らの師・山本梅逸の許にて学ばせる。魁庵の号は梅逸から与えられる。その後諸国漫遊のち、嘉永4（1851）年帰郷。新潟にて子弟を指導。花鳥画に巧みであった。「新潟入船之図」は明治4（1871）年の作品で市文化財指定されている。



襖絵「富士海浜図」(二の間)



中原家での調査の様子

⑤ 動く市政教室

概要 広聴相談課からの依頼を受け、市民を対象として、テーマに基づいて文化財所在地をめぐる広報活動。文化財そのものや文化財保護行政についての理解深化をねらいとする。例年1回ないし2回の教室を実施している。

【小中学生対象】

ア 年月日 平成30年8月7日(火)、8月9日(木) *同じコースで2回実施

イ テーマ 「新潟の歴史ミステリーツアー」

開港150周年記念として、子どもたちが新潟のみなどの歴史について学び、また、あまり知られていないが、新潟の発展に欠かせなかった石油についてや、さらに古くは、弥生時代や古墳時代について、文化財を見学しながら発見することを目的とした。

ウ コース 新潟市歴史博物館・重要文化財旧新潟税関庁舎 → 国史跡新津油田金津鉈場跡 → 石油の世界館 → 弥生の丘展示館、国史跡古津八幡山遺跡

エ 成果 動く市政教室では、参加した市民に事後の感想を提出していただいている。それによると、「身近な文化財を子どもたちと一緒に発見できてよかった。」等の多くの肯定的な意見をいただいた。また、「新潟市の素晴らしさを広める企画がいろいろあることを知った。もっと新潟市の歴史と文化を多くの人に伝えてもらいたい。」とのご意見をいただいた。



旧新潟税関庁舎改修工事現場見学



石油井戸の説明「新津油田金津鉈場跡」C38号井

【一般対象】

ア 年月日 平成30年9月11日(火)、9月13日(木) *同じコースで2回実施

イ テーマ 「新指定答申された文化財をめぐる」

新潟市内で最近、国の指定答申があった文化財や登録された有形文化財をめぐりながら、新潟市の文化財と歴史についての認識を深めることを目的とした。

ウ コース 白根庭園と国登録有形文化財旧白根配水塔 → 国史跡新津油田金津鉾場跡 → 石油の世界館 → 名勝白山公園

エ 成 果 参加した市民の事後のアンケートによれば、レポート提出者42名（参加者は55名）の内、「大変満足した」という回答が35名（83%）、「やや満足した」という回答が6名（14%）、「ふつう」1名（2%）、「やや不満」0名、「不満」0名であった。

⑥ 国^{ダブル}W指定記念シンポジウム

～「史跡新津油田金津鉾場跡」および「名勝白山公園」の国文化財指定を記念して～

ア 日 時 平成30年12月16日（日） 13：30～16：30

イ 趣 旨 平成30年10月15日、国の官報告示により、史跡新津油田金津鉾場跡と名勝白山公園の国指定が決定した。これらの文化財については、数年前より調査等の準備をすすめてきた経緯があり、その価値が国から認められたことを市内外の方々に広く知っていただき、今後の保護と活用のステップとなることを目的として本シンポジウムを開催した。

ウ 会 場 新潟市市民プラザ ホール

エ 主 催 新潟市（歴史文化課、秋葉区地域総務課、中央区建設課）

オ 次 第 あいさつ……………新潟市長 中原八一

各文化財紹介

①国史跡新津油田金津鉾場跡……………秋葉区地域総務課 山本英二

②名勝白山公園……………中央区建設課 竹石広

文化庁調査官による基調講演

①国史跡新津油田金津鉾場跡……………文化庁文化財第二課主任調査官 山下信一郎

②名勝白山公園……………文化庁文化財第二課調査官 青木達司

パネルディスカッション

【パネリスト】文化庁 山下信一郎

文化庁 青木達司

長岡造形大学名誉教授 木村勉

日本大学短期大学部准教授 山崎誠子

新潟市歴史文化課 小島真由美

【コーディネーター】新潟市歴史文化課 入江清次

質疑応答

カ 成 果 参加した市民の事後のアンケートによれば、シンポジウム全体を通しての感想の項目で「興味深い」「期待通り」「内容が十分」のすべての項目で4ランク、3ランクが90パーセント以上を占めた。

3 埋蔵文化財

(1) 概要

① 埋蔵文化財保護関係事務

新潟市の埋蔵文化財保護行政は、歴史文化課埋蔵文化財担当と文化財センターで所管している。

事務分掌としては、開発調整・試掘確認調査・工事立会・史跡整備（国史跡古津八幡山遺跡整備を除く）を歴史文化課埋蔵文化財担当が担当し、本発掘調査・保存処理・出土品整理活用（再整理・公開普及・資料展示貸出など）を文化財センターが担当する。

開発調整では、原則として国・県・市の行う公共事業や民間の開発行為・農振除外・農地転用・建築確認・不動産鑑定などに伴う申請・届出・照会等に対する事前審査を行い、「新潟市試掘確認調査基準」（平成19年4月1日）に基づいて試掘確認調査の可否を判断している。

なお、平成30年度の審査件数は10,433件（うち民間事業8,967件、公共事業1,466件）であった。前年度の8,511件と比べ1,922件（うち民間事業564件、公共事業1,358件）の増となった。公共事業については、平成29年度末にNTT東日本と協議をし、市内で実施する電話柱の設置撤去についても事前審査対象としたので増加した。

審査の結果、文化財保護法上の取り扱いとなったものは、法93条（民間事業）関連149件、法94条（公共事業）関連43件であった。

② 試掘確認調査・工事立会

各種開発に先立ち、開発地における遺跡の有無や範囲等を把握し、埋蔵文化財保護協議の資料を得ることを目的に試掘確認調査を実施した。また、工事による遺跡への影響が軽微な場合は工事立会で記録を作成した。平成30年度の試掘確認調査の件数は表1のとおりであった。

なお、平成30年度の試掘調査で12遺跡（No.793裏田郷遺跡・No.794岡崎遺跡・No.795道正遺跡・No.796下郷中遺跡・No.797五郎巻遺跡・No.798桑山前田遺跡・No.799水田中谷内遺跡・No.800蛇喰遺跡・No.801真木江向遺跡・No.802萱中遺跡・No.803宮上遺跡・No.804岡崎南遺跡）が新たに発見された。新潟市内の遺跡数は欠番を除き平成30年度末で766か所となった。

表1 平成30年度の試掘確認調査件数

区名	調査月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
北 区	民 間								2				1	3
	公 共		1						2					3
東 区	民 間		1				1				1	1		4
	公 共						1							1
中央区	民 間		1		2					1				4
	公 共							1						1
江南区	民 間		1	2	2	2	2	1	1	1	1	1		14
	公 共				1									1
秋葉区	民 間	1		2	1			1			2	1		8
	公 共		1					1		1				3
南 区	民 間	2		1				1		1				5
	公 共		1	1										2
西 区	民 間		1								1		1	3
	公 共													0
西蒲区	民 間								1			1		2
	公 共							5						5
合 計	民 間	3	4	5	5	2	3	3	4	3	5	4	2	43
	公 共	0	3	1	1	0	1	7	2	1	0	0	0	16
	合 計	3	7	6	6	2	4	10	6	4	5	4	2	59

③ 本発掘調査

平成30年度の本発掘調査は表2のとおりである。遺跡の発掘調査概要は「(2) 本発掘調査の概要」に記した。

表2 平成30年度の本発掘調査（現地調査）

遺跡名・区 名	原 因	調査面積 (㎡)	主な時代	備 考
前山遺跡 江南区	民間開発	64.8	古代	発掘調査番号 2018001
程島館跡 秋葉区	個人住宅	122.4	縄文・平安・中世	発掘調査番号 2018002
原遺跡 秋葉区	個人住宅	177.4	縄文	発掘調査番号 2018003
川根谷内遺跡 江南区	中央環状線 横越バイパス	821.6	古代	発掘調査番号 2018004
砂崩前郷遺跡 江南区	市道砂崩南線	789.6	縄文・弥生・平安	発掘調査番号 2018005

④ 出土品整理活用事業

これまでの発掘調査等によって得られた記録や出土品を適切に管理し、有効な活用を図るために調査資料の再整理作業を行った。

⑤ 史跡関連調査及び活用事業

古津八幡山遺跡の保存を目的とした遺跡の内容の詳細を確認するための確認調査を実施した。

平成29年度から実施しており、2か年目になる。

活用事業では古津八幡山遺跡での体験イベントや、弥生の丘展示館で企画展および関連講演会などを実施した。詳細は「(3) 史跡の保存活用事業」に記した。

(2) 本発掘調査の概要

① 前山遺跡

所在地 新潟市江南区北山字前山
調査期間 平成30年5月14日～31日
調査面積 64.8㎡
調査の原因 道路改良工事（民間開発）
遺跡の時代 奈良時代・平安時代

遺跡の概要

前山遺跡は江南区北山にある北山池の南東約200mに所在する。信濃川・阿賀野川・小阿賀野川に囲まれ、北西－南東方向に伸びる新砂丘Ⅰ-3（亀田砂丘後列）の東寄りに位置する。昭和42（1967）年ごろの砂取り工事によって広範囲に包含層が削平された。その後、昭和61（1986）年に包含層等の状況確認のため、試掘調査が行われた際に遺物が出土した。現在の標高は2.1m前後で、周辺は住宅地・畑地・道路となっている。同列砂丘上には金塚山遺跡や彦七山遺跡といった古代を主体とする遺跡が所在する。調査地は砂丘の南側斜面に位置しており、砂丘間低地への落ち際にあたる。

発掘調査は資材置場造成に伴う引き込み道路の改良部分にあたる幅6m、延長約24mを対象とした。遺構は調査区北側で畝状遺構8条、中央部でピット2基、南端で水田関連と考えられる性格不明遺構3基が検出された。このうち古代の遺構はピット2基のみで、これ以外は近世・近代以降の遺構であった。2基のピットは柱穴と思われるが、柱根は残存しておらず、掘立柱建物の柱の配置も確認できなかった。一方、調査地より南側に広がる低地部では、地域住民によるとかつて「スゲ」を栽培するためのスゲ田があったという。調査区南端で検出された性格不明遺構もこれに類する遺構の可能性が考えられる。

調査では古代の須恵器・土師器を中心とする遺物が出土した。須恵器は無台杯や大甕、土師器は非ロクロ成形の長甕やロクロ成形の小甕などが見られる。この他に古墳時代後期の土器・中世陶磁器・近世陶磁器、石製品や鍛冶関連遺物が出土している。

今回の調査で確認された古代の遺構・遺物はわずかであったが、砂丘から砂丘間低地にかけての堆積状況を観察することができた。調査区で検出された砂丘は南側に向かって傾斜しており、調査区中央から南側は砂丘の上に粘質土が水平に堆積している。この粘質土は砂丘間低地に流れる河川によって堆積したものと考えられる。この粘質土上面に古代の遺物包含層や遺構確認面が形成されていることが判明した。また、調査区北東側の砂丘上にある畑からは古代・中世の遺物が採集されており、特に8世紀の土器が多く確認されている。おそらく、古代において遺跡の中心は北東側にあり、調査区は集落の縁辺部に位置していたと推測される。



調査区遠景 南東から



完掘全景 南東から（写真奥が砂丘頂部）

② 程島館跡

所在地 新潟市秋葉区新栄町
調査期間 平成30年5月25日～7月2日
調査面積 122.4㎡
調査の原因 個人住宅建設
遺跡の時代 縄文時代・平安時代・室町時代

遺跡の概要

程島館跡は新津丘陵末端部の標高約6.1mに立地し、調査地区は遺跡の北端に位置する。丘陵末端の地形を利用した一辺110mの城館跡として伝えられているが、詳細は明瞭ではない。明治27（1894）年に作成された旧更正図から水田に囲まれた区画を確認できる。水田部分が館の堀と考えられ、南側で平成29年度実施された本調査区同様に平成30年の調査区も堀の内側に当たる。平成29年度調査区では、県内でも非常に珍しい縄文時代前期終末の遺構が検出され、良好な資料がまとまって出土している。

今回の調査地区は、かつての整地などで大部分が遺構確認面まで攪乱されて盛土や盛砂が厚く堆積していたが、確認面は概ね北へ向かって傾斜して下っている。遺物包含層は2層に分層され、どちらの層からも縄文・古代・中世の遺物が混在して出土する。整地時の重圧などで包含層の遺物の残存状況は良くない。しかし、いくつかの遺構の覆土からは比較的良好な状態の遺物が出土した。

遺構は非常に多く、井戸2基、土坑10基、溝状遺構5条、性格不明遺構7基、ピット117基が重なり合うように検出された。大半が古代と中世で、縄文時代の遺構は南側のわずかに高くなった一部でしか確認されなかった。古代の遺構は、SK32のように焼土と炭化物が層状に堆積している土坑が複数基検出された。焼土が広範囲に厚く堆積しており、燃焼時間の長さがうかがえる。中世の遺構では、柱根は検出されなかったものの柱痕をもつピットが多数検出され、掘立柱建物が何棟か建つのではないかと推測される。また、古代の遺溝を切る井戸（SE1）の底部からは、良好な状態の横槌や刀形などの木製品の他に、端部を削って尖らせている加工木や樹皮が付いた状態の自然木が多数出土するなど、多くの情報が得られた。

出土遺物の多くは平安時代の土師器や須恵器で、中世陶磁器や焼成粘土塊のほかアスファルトがわずかに含まれる。また、少ないながらも縄文時代前期終末の土器や黒曜石片も出土した。

今回の調査では、新津丘陵の末端部に古代・中世の痕跡を確認することができた。各遺構で採取した土壌からは堆積当時の植生や植物利用などが具体的に推測できる。今後は、2か年の調査を総合的に判断して時代ごとの土地利用を考えていく予定である。



程島館跡調査区全景（左が北東）



土坑（SK32）と井戸（SE1）土層断面

③ ^{はら}原遺跡

所在地 新潟市秋葉区程島字原
調査期間 平成30年6月1日～7月30日
調査面積 177.4㎡
調査の原因 個人住宅建設
遺跡の時代 縄文時代

遺跡の概要

原遺跡は明治時代から地域住民や研究者の間ですでに知られていた、市域でも著名な縄文時代遺跡である。新津丘陵北西部に位置し、丘陵から張り出した北東側と南西側に谷が入る台地状の尾根に沿って、東西400m×南北200mほどの広がりがある。今回の個人住宅建設に伴う発掘調査は、標高約25mの遺跡中心部と考えられる頂部平坦面で実施した。調査は通算で第10次調査となる。なお、建物部分は基礎の掘削幅が狭小で前年度に工事立会を実施している。遺構は複数基検出され、遺物は本調査と同時期の土器と縄文時代後期の土偶が出土した。

今回の調査は小規模な調査ではあったが、土坑17基、性格不明遺構3基、ピット31基の合計51基にのぼる縄文時代の遺構が検出され、土版が2点出土した土坑1基も見つかった。土版は破碎されており、祭祀的な意味合いが考えられる。また、袋状土坑（SK44）も1基確認された。袋状土坑とは、入口が狭く底部近くが膨らむ形状をしており、貯蔵穴と考えられている遺構である。調査区の北側は、乾燥するとともに崩れやすい砂の地盤なのに対し、袋状土坑が発見された南側は粘土質で丈夫な地盤だった。土地を上手に利用する縄文人の知恵が垣間見える。31基のピットは、掘立柱建物の柱穴と推定されるが、現状では明確に建物が確認できていない。遺物は縄文土器が破片数で約10,000点も出土した。時期は縄文時代中期前半～後葉、後期前葉～後葉、晩期中葉～後葉、弥生時代前半だが、晩期中葉の時期が主体を占める。今回の調査で、弥生時代の前半の土器が新たに確認された。縄文土器の一部には、アスファルトの付着したものも混じる。石器では、石鏃や石錐、石鏃、磨製石斧、磨石・石皿・台石など生業に関する道具がまとまって出土した。石鏃は多く28点（未成品を含む）も出土している。石材として阿賀野川流域あるいは守門岳周辺からもたらされた半透明で白濁した玉髓という石が多用されており、原石や石核に伴って、剥片も大量に検出された。遺跡で盛んに石鏃や剥片石器製作が行われたと考えられる。磨製石斧も7点出土し、そのうち2点は糸魚川周辺で産出される透閃石^{とうせんせき}という非常に硬い石材が、その他5点は阿賀野川流域以北に産する緑色岩という石材が用いられている。どちらも新津丘陵では産出しない石材であり、縄文人の地域間交流が窺われる。その他に、前述した土版や土偶、石棒といった遺跡に暮らした人々の精神活動に関わるいわゆる「第2の道具」も発見されている。

このように、今回の調査は小規模な調査だったにも関わらず、検出された遺構の数も遺物の出土量も多く、豊富な内容を誇っている。原遺跡は縄文時代中期から晩期における新津丘陵の拠点集落であったと考えられる。



完掘状況（北東から）



袋状土坑（SK44）断面（北東から）

④ ^{かわね やち}川根谷内遺跡

所在地 新潟市江南区曙町5丁目
調査期間 平成30年8月1日～10月15日
調査面積 821.6㎡
調査の原因 主要地方道新潟中央環状線道路整備事業
遺跡の時代 平安時代

遺跡の概要

川根谷内遺跡は旧国道49号線上の旧亀田町と横越町の境界にあたる江南区曙町・川根谷内地内に所在する。この場所は、阿賀野川の支流と考えられる埋没した旧河道南側の自然堤防であり、遺跡の時代は奈良・平安時代とされている。この旧河道は明治時代や終戦直後の地図・写真で確認することができる。現地の標高は約3.1～3.7mで、阿賀野川まで東に約1.9kmの距離である。現在分かっている遺跡の範囲は、自然堤防に沿っておよそ、北西南東方向340m、北東南西方向100mの楕円形で、推定面積は約22,500㎡となり、遺跡の大部分が住宅地となっている。昭和48（1973）年に行われた詳細分布調査で発見されたが、この一帯は昭和40年代前半に工事用に土取りされており、遺跡の大部分が消滅したとされている。

今回の本調査は主要地方道新潟中央環状線道路整備事業（横越バイパス）に伴って行われた。調査地は遺跡の北西の端である。道路建設に先立って、平成29年に道路予定地で確認調査を行ったところ、遺構や平安時代の遺物が見つかり、遺跡が道路予定地内まで広がることが確認された。そこで、道路建設により影響の及ぶ、道路本線部分の延長約60m、幅約12mを対象範囲として、本調査を行った。川根谷内遺跡では、過去に5回の確認調査が行われているが、本調査が行われたのは今回が初めてである。また、平成28年には同じ新潟中央環状線道路建設に伴い、旧49号線をはさんだ旧河道北側の自然堤防上に位置する^{ざるき}筑木遺跡で本調査が行われている。

今回の調査では近世以降の水田跡とそれに伴う畦畔、性格不明遺構が検出された。遺物は平安時代の土師器・須恵器と江戸時代以降の陶磁器が出土した。調査区全面で近世の水田跡が確認され、水田を区画するための畦畔を検出した。性格不明遺構は調査区北端で見つかり、遺構の深度は現在の地表面から約1.3m下であった。遺構は調査区外へ延びており、遺構全体を調査できなかったため明確ではないが、位置的に旧河道の川べりの可能性が高いと考えられる。

今回の本調査では、江戸時代より前と考えられる遺構は発見されなかった。しかし、平安時代の遺物が出土していることや、同じ自然堤防上で数多く同時代の遺跡が発掘されていることから、川根谷内遺跡でも当時人々が生活していたと考えられる。調査地は自然堤防の幅が狭まる場所で、南側に向けて傾斜していることから、居住に適した場所とはいえないと推測できる。そのため、遺跡の主要部は自然堤防の幅が広がる、調査区より東側の遺跡範囲中心付近で、調査地はその縁辺部と考えられる。



調査地と北にのびる中央環状道路（南西から）



調査完了時の状況（南西から）

⑤ すなくずれまえこう 砂崩前郷遺跡

所在地 新潟市江南区砂山1丁目
調査期間 平成30年7月23日～12月14日
調査面積 789.6㎡
調査の原因 市道砂崩南線整備工事
遺跡の時代 縄文時代中期～晩期・弥生時代初頭・平安時代

遺跡の概要

砂崩前郷遺跡は、亀田砂丘前列（新砂丘Ⅰ-2）の中央東寄りに位置し、東西約200m、南北約200mの範囲と推定されている。付近には、縄文時代前期初頭まで遡る砂崩遺跡が本遺跡北東側に隣接するなど、原始・古代の遺跡が密集し、市内の平野部では最も早くから人々の活動痕跡が認められる地域である。

調査は市道砂崩南線建設工事に伴うもので、工事に先立って平成29年度に砂丘の南側に沿う約770mの区間を対象に試掘・確認調査を行った結果、平安時代の遺物が出土した1区（230㎡）と縄文時代中期・晩期と平安時代の遺物が出土した2区（約400㎡×2面）を本発掘調査の対象とした。

基本層序は大きく水田耕作土（Ⅰ層）、沖積層である黄灰色～灰色シルト（Ⅱ層）及び灰色粘性シルト層（Ⅲ層）、砂丘堆積土である黒褐色腐植砂層（Ⅳ層）及び基盤となる浅黄色砂層（Ⅴ層）に分けられる。Ⅰ・Ⅱ層は水平に堆積し、Ⅱ層上面が近世以降の遺構及び古代と推定される旧河道の検出面である。Ⅲ層以下は2区でのみ検出され、Ⅳ層上面では標高0.9～0.5mで南東側に舌状に突き出た地形となる。Ⅳ層は層厚0.3～0.5m、a～cに分けられ、Ⅳa・b層が縄文～弥生時代の遺物包含層、ⅣcはⅤ層との漸移層で、Ⅳc～Ⅴ層上面が同時期の遺構確認面である。

確認調査において平安時代の遺物が確認された1区と2区上層では、包含層の残存は認められず、2区において古代と推定される旧河道から須恵器杯などが出土したにとどまる。

2区下層では、Ⅳ層において縄文時代中期～弥生時代中期の土器が収納コンテナ35箱、石鏃・磨製石斧の刃部、磨石・台石などの石器が5箱出土した。出土土器の主体時期は縄文時代晩期後葉であり、縄文時代中期の土器はⅣ層下位層（Ⅳb・c層）を中心とした出土である。Ⅳc～Ⅴ層（浅黄色砂層 砂丘砂）にて遺構検出を行い、土坑3基、小土坑1基が確認された。遺構の分布は標高の高い調査区の北側に偏る。土坑（SK7）埋土中では土偶の胴下半から左足にかけての破片が出土した。頭部が伴わないが、形状の特徴から、縄文時代晩期に東北地方北部を中心に分布する遮光器土偶と推測される。遺構の年代は、出土遺物の状況から、土器の主体時期と同じ縄文時代晩期と推定される。

2区の調査範囲は砂丘と後背湿地との境界にあたり、縄文時代中期～弥生時代中期の遺物包含層が良好な状態で残存することが確認された。調査区の限界から不明な点が多いが、砂丘頂部に向かう北側調査区外において、土偶祭祀を伴う縄文時代晩期集落が展開していた可能性がある。



2区下層
黒褐色腐植砂層（Ⅳ層）遺物出土状況（南西から）



遮光器土偶

(3) 史跡の保存活用事業

① 国史跡古津八幡山遺跡保存活用計画等推進委員会・同調査指導部会（以下、推進委員会・指導部会）

平成29年3月に策定した『国史跡古津八幡山遺跡保存活用計画』の推進や、それに伴う古津八幡山遺跡確認調査に関する指導や助言を受けるため、平成30年度に設置した推進委員会・指導部会については、推進委員会を1回（通算3回目）、指導部会を2回（通算4・5回目）開催した。推進委員会・指導部会の経過等については表1のとおりである。



推進委員会・指導部会（平成31年3月13日）

表1 国史跡古津八幡山遺跡保存活用計画等推進委員会の経過

開催日	開催数（平成30年度）		概 要	報告・議題項目
	保存活用計画等 推進委員会	確認調査 指導部会		
平成30年 8月30日		第1回	確認調査の 現地指導	堅穴住居、掘立柱建物の現地確認・指導、今後の調査方針の指導
平成31年 3月13日	第1回	第2回	平成30・31年度の保存管理関係、整備関係、活用関係、運営・連携体制関係について	（1）保存・管理関係（平成30年度確認調査成果・平成31年度の調査計画）、（2）平成30年度実施事業について（活用関係：フォトコンテスト、イベント、企画展・関連講座・講演会、入館者数など 運営・連携体制関係：定期検査チェックシート・カルテ）、（3）平成31年度実施事業について（整備関係：堅穴住居の修繕など 活用関係：小・中学校向け配布資料、ワークシート、イベント、企画展・関連講演会など）の報告・検討

② 古津八幡山遺跡確認調査（第21次調査）

平成30年度は、平成29年度に引き続いて遺跡北東域の史跡指定地外（隣接地）の場所において、地権者のご理解・ご協力のもと確認調査を実施した（第21次調査）。

調査地は標高約50mの遺跡最高所から北東へ一段下がった丘陵中腹域にあたり、標高約25mの平坦面及び緩斜面域に位置する。発掘調査によって、当遺跡で初となる掘立柱建物（SB1）が確認されたほか、平成29年度の発掘調査で確認していた堅穴住居（SI1）の規模が明らかとなった。

掘立柱建物（SB1）は、柱間が1間×3間で、梁行約4.5m、桁行約6.2mの建物と考えられ、母屋面積で約28㎡を測る。梁の長いことや、梁の中央外側で柱穴が対の位置で確認されたことなどから、この建物は独立棟持柱建物の構造になると推定される。

なお、周辺では多くのピットが検出されており、ピットから出土した遺物や、堆積した土の特徴などから、その多くは弥生時代の掘立柱建物の柱穴と推測される。そのため、弥生時代にはこの場所に複数の掘立柱建物が建てられていたと考えられる。掘立柱建物群の機能については今後の検討課題であるが、低地に比較的近く、水や米などの物資を運び入れるのに好都合な立地であることから、それら建物群の一部は倉庫であった可能性が推測される。

堅穴住居（SI1）は、やや丸みをもった隅丸方形の平面形で、一辺約9.5mを測る。一辺の長さは古津八幡山遺跡で一般的な堅穴住居の約2倍もあり、面積にするとおよそ4倍にもなる大規模なもので、古津八幡山遺跡の堅穴住居の中では最大となる。県内においても、この時期の堅穴住居としては最大級といえる。出土土器から弥生時代終末期の堅穴住居と考えられる。なお、壁溝が2条確認されていることから住居の拡張を行っているかと推測される。

この大形堅穴住居の性格や機能については今後の検討課題であるが、古津八幡山遺跡の最高所に築かれた前方後方形周溝墓も近い時期と推測され、次の古墳時代へと移り変わっていく当時の社会情勢を反映している可能性がある。

遺跡北東域については令和元年度も調査を実施する予定であり、上記建物周辺域の状況をより把握することで、建物の性格や遺跡の動向等についてさらに検討していきたい。



掘立柱建物（SB1）調査風景



竪穴住居（SI1）近景（北西から）

③ 新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場（弥生の丘展示館・史跡公園）

ア 公開・体験学習

弥生の丘展示館の平成30年度来館者数は42,357人である（表2）。平成29年度来館者数である34,459人より7,898人増加した。平成27年度の71,238人をピークに減少していた来館者数であるが、平成30年度は増加に転じた。

団体利用は、57団体、2,094人で平成29年度の85団体、2,416人に比べて件数は減少したが、全体の利用者数は増加した。これまでと同じく小学校による利用が大半を占めている。ほかに、地域コミュニティ関係や各種サークルの利用も多く、増加傾向にある（表3）。

また、体験学習の参加者数は7,622人で、来館者数同様、平成29年度の7,306人に比べて増加した（表4）。

表2 平成30年度 弥生の丘展示館来館者数

月	開館 日数	来館者数（人）				
		個人	団体	全体	1日平均	累計
4	26	3,978	74	4,052	155.8	261,740
5	28	7,588	373	7,961	284.3	269,701
6	26	3,579	288	3,867	148.7	273,568
7	26	2,271	266	2,537	97.6	276,105
8	28	4,097	133	4,230	151.1	280,335
9	26	3,586	415	4,001	153.9	284,336
10	26	3,453	302	3,755	144.4	288,091
11	26	2,929	221	3,150	121.2	291,241
12	23	1,377	0	1,377	59.9	292,618
1	25	2,191	0	2,191	87.6	294,809
2	24	1,572	11	1,583	66.0	296,392
3	27	3,642	11	3,653	135.3	300,045
合計／平均		40,263	2,094	42,357	136.2	

表3 平成30年度 弥生の丘展示館分類別利用者数

分 類 名	団体利用件数(件)	利用者数(人)
保育施設・幼稚園	2	71
小学校	19	1,040
中学校	3	61
その他学校	1	5
市関係	5	100
行政・議会関係	3	17
自治会・町内会など 地域コミュニティ関係	11	480
各種サークルなど	9	179
企業企画ツアーなど	1	41
その他	3	100
合 計	57	2,094

表4 平成30年度 弥生の丘展示館体験学習参加者数

月	体験学習メニュー		参加者数（人）				
	屋内体験（有料）	屋外体験（無料）	個人	団体	全体	1日平均	累計
4	土器・土偶・土笛・土鈴づくり	石斧体験	202	123	325	12.5	47,806
5	勾玉・管玉・鹿角ペンダントづくり	弓矢体験	767	691	1,458	52.1	49,264
6	土器・土偶・土笛・土鈴づくり	火起こし体験	122	535	657	25.3	49,921
7	鋳造体験（銅鐸・銅鏡）、勾玉・管玉・鹿角ペンダントづくり	弓矢体験	469	680	1,149	44.2	51,070
8	勾玉・管玉・鹿角ペンダントづくり	火起こし体験	957	326	1,283	45.8	52,353
9	鋳造体験（銅鐸・銅鏡）、勾玉・管玉・鹿角ペンダントづくり	石斧体験	362	545	907	34.9	53,260
10	土器・土偶・土笛・土鈴づくり	弓矢体験	303	209	512	19.7	53,772
11	鋳造体験（銅鐸・銅鏡）、勾玉・管玉・鹿角ペンダントづくり	石斧体験	240	199	439	16.9	54,211
12	鋳造体験（銅鐸・銅鏡）、勾玉・管玉・鹿角ペンダントづくり	火起こし体験	149	0	149	6.5	54,360
1	鋳造体験（銅鐸・銅鏡）、勾玉・管玉・鹿角ペンダントづくり	クラフトづくり	223	0	223	8.9	54,583
2	アングイン編み、勾玉・管玉・鹿角ペンダントづくり	クラフトづくり	181	11	192	8.0	54,775
3	アングイン編み、勾玉・管玉・鹿角ペンダントづくり	火起こし体験	306	22	328	12.1	55,103
合計／平均			4,281	3,341	7,622	24.5	

イ 活用事業・イベント

平成30年度に行ったイベントなどの一覧は表5のとおりである。例年行っている植物観察や稲作体験はリピーターも多く引き続き好評である。

平成30年度の企画展は3回開催し、企画展に関連する講座・講演会をそれぞれ行った(表6)。また、講座・講演会の内容をまとめた記録集を刊行した(新潟市文化財センター2019『平成30年度 史跡古津八幡山弥生の丘展示館 企画展関連講座・講演会記録集』)。

なお、平成29年度に続いて古津八幡山遺跡のフォトコンテストを開催し、28名80作品の応募があった。入賞作品については、企画展1の会期(平成30年4月24日～7月29日)の間、弥生の丘展示館で展示した。



平成30年度古津八幡山遺跡
フォトコンテストグランプリ作品
〔月照の古津八幡山遺跡〕樋口廣治氏撮影

表5 平成30年度 弥生の丘展示館イベント一覧

開催日	内 容	参加者数 (人)	開催日	内 容	参加者数 (人)
4月29日(日)	古津八幡山遺跡の弥生時代の姿を考える 植生編 春	9	10月7日(日)	まいぶん祭り	134
5月13日(日)	弥生の水田再現①	20	10月14日(日)	弥生食体験 ドングリを食べよう①	6
5月20日(日)	古津八幡山遺跡の弥生時代の姿を考える 昆虫編①	8	10月21日(日)	古津八幡山遺跡の弥生時代の姿を考える 植生編 秋	10
6月3日(日)	花と遺跡のふるとフェスタ	1,196	11月4日(日)	弥生の水田再現⑤	20
6月17日(日)	弥生の水田再現②	16	11月11日(日)	弥生食体験 ドングリを食べよう②	6
6月24日(日)	古津八幡山遺跡の弥生時代の姿を考える 昆虫編②	24	11月25日(日)	稲藁のリースづくり	14
7月1日(日)	古津八幡山遺跡の弥生時代の姿を考える 植生編 初夏	17	12月2日(日)	土器カレンダーづくり	14
7月15日(日)	弥生の水田再現③	12	12月9日(日)	弥生食体験 ドングリを食べよう③	7
7月22日(日)	アングイン①	10	12月23日(日)	アングイン③	6
7月29日(日)	発掘体験	5	1月6日(日)	弥生の餅つき	397
8月5日(日)	古津八幡山遺跡の弥生時代の姿を考える 昆虫編③	22	2月3日(日)	古津八幡山遺跡の弥生時代の姿を考える 動物編	5
9月2日(日)	アングイン②	10	2月17日(日)	ミニチュア土器づくり	13
9月16日(日)	弥生の水田再現④	18			
合 計					1,999

表6 平成30年度 弥生の丘展示館企画展及び企画展関連講座・講演会など

会期・開催日	内 容	参加者数 (人)
4月24日(火)～7月29日(日)	企画展1 「古代の祭祀」	
5月27日(日)	企画展1 関連講座「律令祭祀の基礎知識・越後平野における古代の祭祀関連遺跡とその様相」金田拓也(市歴史文化課)・相田泰臣(市文化財センター)	38
6月23日(土)	企画展1 展示解説	5
7月8日(日)	企画展1 展示解説	8
8月7日(火)～12月2日(日)	企画展2 「豪族居館－王の暮らす屋敷－」	
10月14日(日)	企画展2 関連講演会「古墳時代の集落と豪族居館－東日本を中心に－」菊地芳朗氏(福島大学行政政策学類教授)	41
11月10日(土)	企画展2 展示解説	9
12月11日(火)～4月14日(日)	企画展3 「鉄－弥生・古墳時代の鉄器－」	
12月23日(日)	企画展3 展示解説	5
2月10日(日)	企画展3 関連講演会「弥生の「鉄」がたつ日本海沿岸流域の交流」林大智氏(石川県埋蔵文化財センター専門員)	91
2月17日(日)	企画展3 展示解説	17
3月10日(日)	企画展3 展示解説	6
合 計		220

※関連講座・講演会是新潟市文化財センターを会場に行った。



田植え(弥生の水田再現)



企画展3 関連講演会

(4) 文化財センター活用事業

文化財センターでは開館中であればいつでも見学できる展示室のほか、考古学・民俗学に関する講座・イベント等を開催している。団体利用もあり、特に小学校社会科において3学年の「むかしのくらし」、6学年の「日本の歴史」単元での利用がある。平成30年度の来館者数は11,970名である(表1)。平成29年度の来館者数12,767名から797名減少している。

① 文化財センターでの事業

ア 学校利用

小学校では34校のべ2,154人の利用があった。平成29年度と比べ、2校増加している。6学年では展示室見学のほか火起こしや土偶づくり・勾玉づくりなどの体験メニューを行う。3学年では民具を実際に使用する体験や、旧武田家住宅の囲炉裏で地元の語り部ボランティアから昔語りを聞く体験を行う。中学校は1校のみ総合学習での利用があった。また、来館者には含まれないが、社会科や総合学習で出前講座を利用した小学校は15校1,125名、中学校2校300名あった。

イ 企画展

年3回の企画展と館外展示を開催した(表2)。

ウ 講座・イベント等

市民に歴史を身近に感じていただくための講座やイベントを開催した(表3)。

② 発掘現場現地説明会

発掘調査の成果を公開するための現地説明会を2遺跡で行い、137名の参加があった(表4)。古津八幡山遺跡では台風のため現地説明会を中止した。

表1 平成30年度 文化財センター来館者数・体験メニュー参加者数

月	開館日数	来館者数(人)				体験メニュー参加者数		
		個人	団体	計	1日平均	個人	団体	計
4	26日	609	435	1,044	40.2	178	748	926
5	26日	606	578	1,184	45.5	186	882	1,068
6	26日	591	279	870	33.5	143	496	639
7	26日	1,202	112	1,314	50.5	523	74	597
8	27日	1,435	54	1,489	55.1	638	60	698
9	26日	962	273	1,235	47.5	150	558	708
10	26日	772	469	1,241	47.7	95	436	531
11	24日	687	288	975	40.6	55	0	55
12	23日	560	116	676	29.4	113	0	113
1	24日	476	117	593	24.7	44	0	44
2	24日	720	0	720	30.0	118	0	118
3	26日	592	37	629	24.2	246	0	246
合計	304日	9,212	2,758	11,970	39.4	2,489	3,254	5,743

表2 平成30年度 文化財センター企画展

会 期	企画展タイトル
4月10日(火)～ 7月16日(月・祝)	砂丘と遺跡Ⅱ－亀田砂丘－
7月24日(火)～ 11月25日(日)	鋳物師－近世新潟町の職人－
12月4日(火)～ 3月24日(日)	西蒲区の隠れた宝もの －縄文時代から幕末まで－
7月25日(水)～ 8月28日(火)	亀田砂丘と遺跡 ※館外展示(江南区郷土資料館)

表4 平成30年度 発掘現場現地説明会一覧

遺跡名	開催日	参加者数(人)
砂崩前郷遺跡(江南区)	10月6日(土)	79
川根谷内遺跡(江南区)	10月6日(土)	58
古津八幡山遺跡(秋葉区)	10月7日(日)	台風のため中止

表3 平成30年度 文化財センター主催講座・イベント一覧

開催日	曜 日	内 容	参加者数(人)
5月13日	日	企画展1関連講演会「沈む砂丘と遺跡」	98
5月13日	日	企画展1展示解説会	20
6月2日～16日		大人の土器づくり初級編全3回	8
7月5日	木	ボランティアステップアップ研修会	13
7月7日	土	七夕語り	57
7月29日	日	「の」字状石製品を作ろう	21
8月5日	日	仕事体験「キミも考古学者」	10
8月11日	土	藍の生業染め体験	42
8月19日	日	企画展2展示解説会	7
8月30日	木	ボランティアステップアップ研修会	7
9月8日	土	企画展2関連イベント「鋳造を体験しよう」	15
9月9日	日	企画展2関連講演会「北国越後の鋳物生産」	37
9月9日	日	企画展2展示解説会	10
9月22日	土	民俗講座「新潟市の妖怪伝説」	45
9月30日	日	黒埼の民具とお茶を楽しむ会	49
10月13日	土	民俗講座「間瀬銅山と人々のくらし」	47
11月3日～12月1日		大人の土器づくり上級編全5回	10
12月15日	土	体験「切り絵で正月飾りを作ろう」	22
12月16日	日	企画展3展示解説会	22
1月20日	日	企画展3関連講演会「歩く考古学からの贈りもの」	90
1月20日	日	企画展3展示解説会	38
2月24日	日	2018新潟市遺跡発掘調査速報会	164



「の」字状石製品づくり

Ⅱ 文化財調査報告

国登録有形文化財「中原家住宅」について

黒野 弘靖

はじめに

西区赤塚の中原家住宅では、平成30年（2018）に表門、東塀、北塀、裏門、煉瓦塀、主屋、離れが有形文化財（建造物）に登録された（図1）。主屋は棟札により万延元年（1860）、表門は墨書により昭和10年（1935）、離れと煉瓦塀は家伝により大正初期とわかった。

建築年代の異なる建物が敷地の前側にあり、旧北国街道の品格ある町並みをつくりだしている。また、中原家住宅の敷地は旧北国街道と新潟県道2号に面した、間口62m、奥行227mの短冊形をなす（図1）。

本稿では、こうした二つの中原家住宅の特徴とその意味について、実測調査にもとづく知見を提示したい。今後の中原家住宅の屋敷構えと建造物の、よりの確な価値付けに資する点があれば幸いしたい。

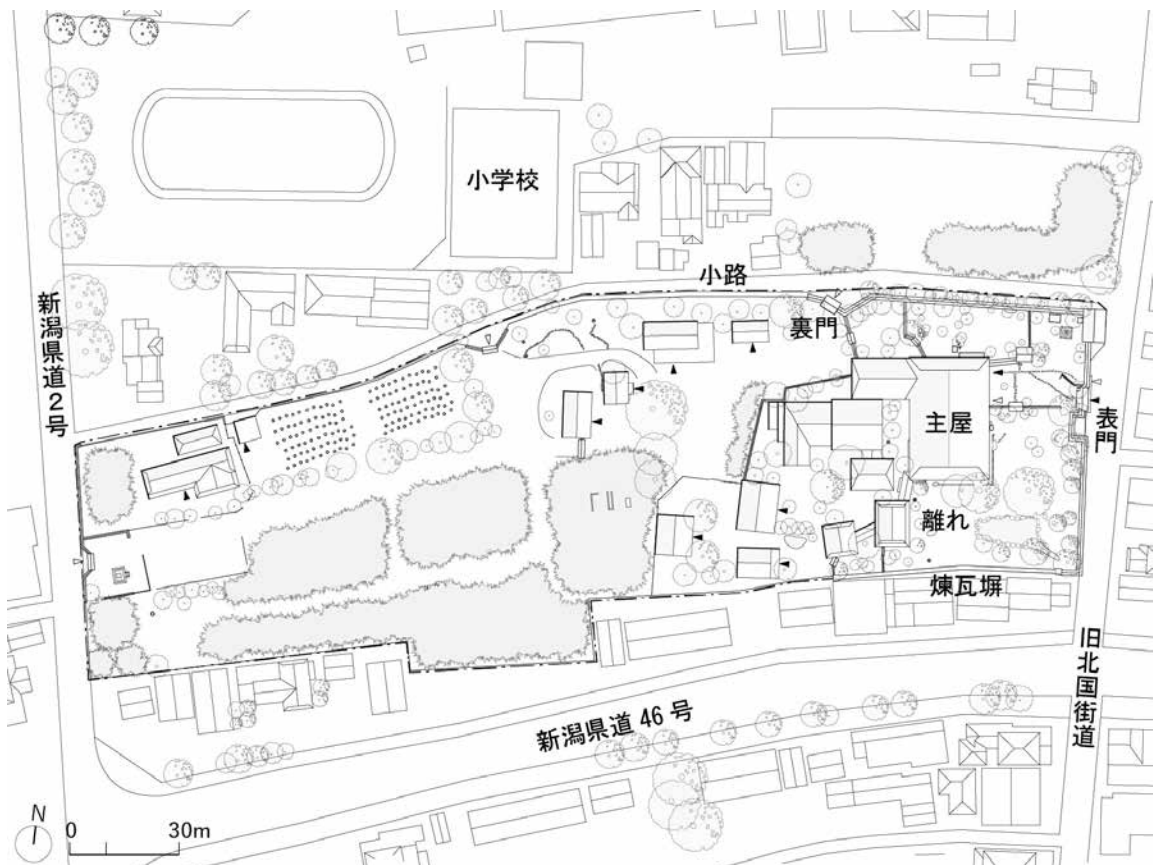


図1 平成30年（2018）の敷地範囲と建物配置

（1）近世末から明治期前期までの屋敷構え

中原家の特徴をなす短冊形敷地について、図2に明治24年（1891）の中原家第24代当主が所有した、宅地と連続した敷地の範囲を示した。旧北国街道と旧馬車道（現在の新潟県道2号）に面した間口32m、奥行230mの短冊形をなしていた。敷地の北側に沿って旧北国街道と旧馬車道をつなぐ旧小路が通っていた。現状と奥行きは変わらず、旧北国街道側から60mまでを宅地、その後ろ側を畑とし、旧馬車道付近に墳墓を設けていた。

明治24年（1891）の敷地範囲を平成30年（2018）の配置図に示した（図3）。登録文化財のうち、表

門と東塀の一部と主屋が含まれていた。樹木では表門の南側で接する新潟市指定保存樹2本（樹種はタブとモミ）が含まれていた。

主屋間口は万延元年（1860）から26mのまま変化していない。近世末から明治中期まで敷地間口は主屋の両側に若干の余地をもつ範囲であった。中原家の2軒北側に近世末期まで赤塚の庄屋を務めた家があった。その明治24年（1891）の敷地範囲は旧北国街道と旧馬車道に面した間口31m、奥行254mの短冊形をなしていた。中原家の敷地間口は明治24年（1891）当時、赤塚で最大規模だったと考えられる。

明治24年（1891）の敷地範囲にある保存樹は、旧北国街道に面する。赤塚では旧庄屋の宅地跡や大慈寺の境内にも、旧北国街道に面した大木が保持される。赤塚の住人からは「ジョテ」と呼ばれ防火樹として大切にされてきたこと、明治42年（1909）の大火では大慈寺のジョテにより延焼範囲が旧北国街道の反対側に広がらなかったことが聞かれた。中原家は嘉永5年（1852）に火災に遭った。万延元年（1860）の主屋再建にあたり第24代当主は表門脇のモミとタブを防火樹として保全したと考えられる。

短冊形敷地の旧北国街道側を宅地、その後ろを畑、さらに後ろ側を墳墓地とする土地利用は、赤塚の他の短冊形敷地に共通していた。平成30年（2018）の墓石は正面を旧北国街道側に向けていた。敷地の正面は旧北国街道であり、墓地は後ろ側のもっとも奥まった位置という利用の秩序が明治期から存在したと考えられる。

なお、明治11年（1878）の明治天皇北陸巡行に際し、主屋の上段の間が昼食場として使われた当時の敷地は、図3に示した間口32m、奥行230mの短冊形の範囲と考えられる。

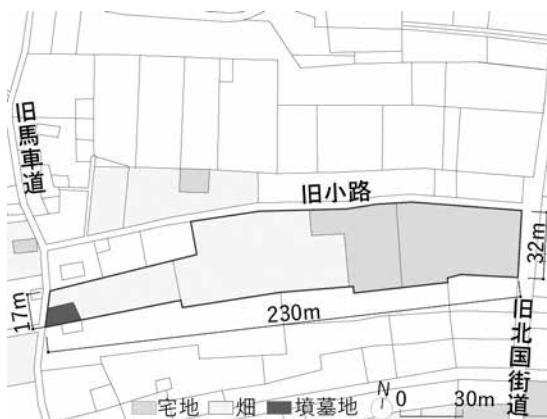


図2 明治24年（1891）の敷地範囲

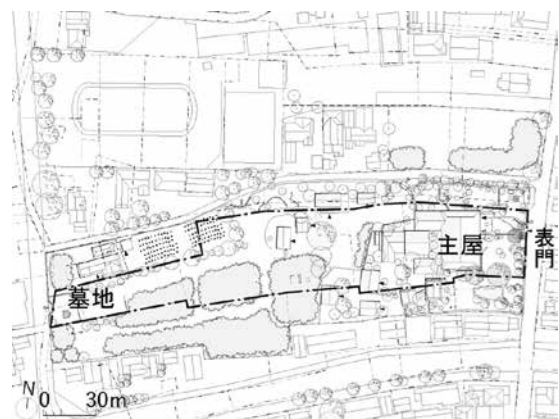


図3 明治期の敷地範囲の表門、主屋、墓地

（2）明治期後期の畑の買い足しと大正期の南側への敷地間口の拡大

第24代当主は明治24年（1891）に、旧小路を挟んで北側隣家の短冊形敷地（間口13m、奥行204m）のうち後ろ側の畑の一部（奥行86m分）を買い足した。明治32年（1899）には、さらに北側に隣接した旧庄屋の畑（奥行86m分）を買い足した。明治33年（1900）には北側隣家の宅地を含めた短冊形敷地全体（間口13m、奥行204m）を買い足した。

旧庄屋から取得した畑は、大正12年（1923）に第26代当主が赤塚村に校地として譲渡した。平成30年（2018）には新潟市立赤塚小学校の校庭となっていた。

第25代当主は、大正3年（1914）に旧北国街道に面した宅地の南側に隣接する間口5m、奥行49mの細長い範囲を買い足した（図4）。これは南隣家の宅地の間口の四分の一に相当した。残る四分の三の宅地所有者に変化はなかった。

買い足した土地の範囲を、平成30年（2018）の屋敷内配置図に示した（図5）。新潟市保存樹に指定された3本（樹種はモミ）が含まれていた。表門南側の保存樹と同じ樹種であり、同じく旧北国街道側にあることから、防火樹だったと考えられる。

赤塚では防火樹が屋敷の隣地境界の役割も果たしていたこと、それを所有する家が窮状の場合に隣家が買い足し、売却側は家屋配置を保ったまま生活を継続できたことを示すと考えられる。街道沿いの両

側に櫛比する家並みの風景を、火災の延焼から守り、各戸の経済状況の変化を緩和することにより家並みを持続するしくみと捉えられる。

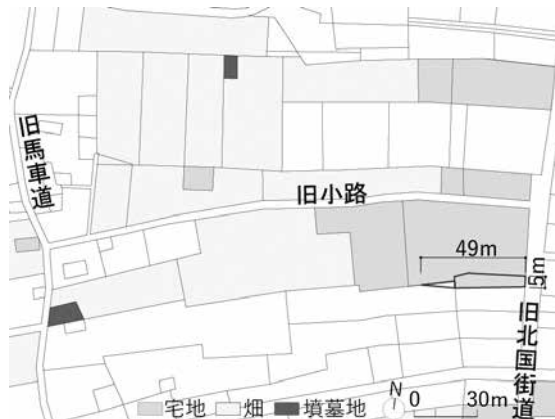


図4 大正3年（1914）の買い足し範囲

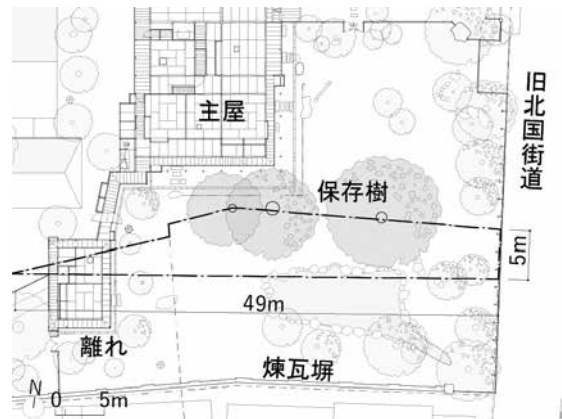


図5 買い足し範囲に現存する防火樹

（3）大正期の南側への敷地間口の拡大

第25代当主は、大正7年（1918）に南側隣家の残る宅地間口12mと後ろ側の畑を含む奥行231mの短冊形敷地を、すでに所有していた旧北国街道沿い東側の短冊形敷地と交換した。中原家の敷地は、旧北国街道と旧馬車道に面した奥行231mの特徴を保ち、間口が49mの短冊形へ拡大した（図6）。

大正7年（1918）に買い足した土地の範囲を、平成30年（2018）の屋敷内配置図に示した（図7）。従前に住宅が建っていたと考えられる宅地には池が掘られた。旧北国街道沿いには東塀が延長された。

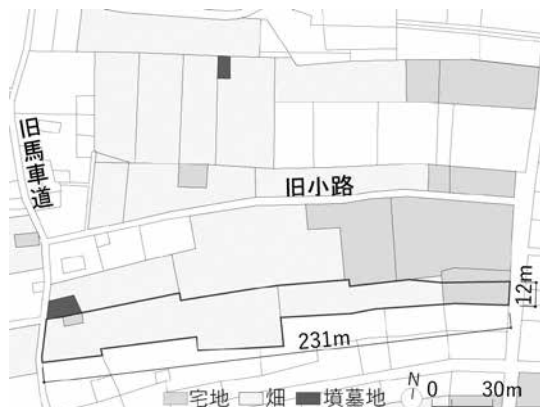


図6 大正7年（1918）の取得範囲

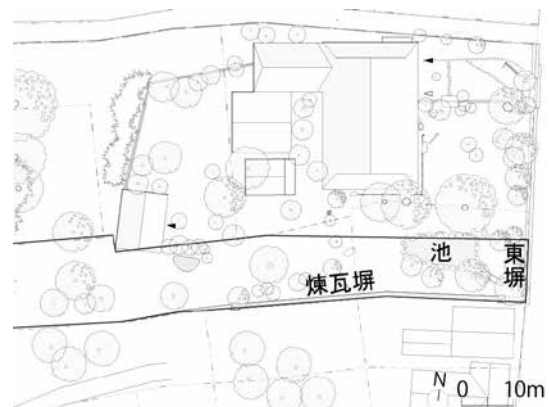


図7 南側の隣地境界沿いの煉瓦塀

新たな南側隣地との境界には、高さ3m、幅700mmの煉瓦塀がつけられた。煉瓦塀は、旧北国街道から離れとその後方の浴室まで52m延びていた（図17）。木造の離れや浴室との間に数メートルの間隙をとっていた。また、大正3年（1914）に買い足していた3本の防火樹は保全された。第25代当主は、大正7年（1918）までに取得した南側の短冊形敷地を整備するにあたり、集落にとっての延焼防止の役割をもつ屋敷構えの要素を受け継いだとわかる。

離れは、主屋よりも後方に建ち、東側（旧北国街道側）に開放的に構えていた（図17）。離れの縁側越しに東側を臨むと、3本の防火樹と煉瓦塀に両側を挟まれた幅17m、奥行40mの庭園が広がる。防火樹3本の並びと煉瓦塀の11連アーチが奥行きを強調する。買い足された短冊形敷地の持っていた間口単位と旧北国街道を正面とする方向性は継承された。

第25代当主は、大正3年（1914）と大正7年（1918）に買い足した土地の煉瓦塀の後ろ側、敷地境界沿いへ、主屋の後ろ側に隣接していた江戸期の西土蔵を移築した。そのさらに西側の隣地境界付近に、大正8年（1919）に奥土蔵を建てた。旧北国街道側の煉瓦塀と、その後ろ側の畑の土蔵群は、集落規模の火災への備えと捉えられる（図17）。

大正3年（1914）と大正7年（1918）に買い足した短冊形敷地のうち、奥土蔵よりも後ろ側の畑は竹林とした。また、西土蔵や奥土蔵はいずれも旧北国街道側を向いた。短冊形敷地単位の持っていた旧北国街道を正面とする方向性を、屋敷地全体で維持していた。

延長52mの煉瓦塀は、両端を900mm角、高さ3.8mの親柱とし、その間に10連のアーチ形状を積み出していた（図8）。アーチ積みは敷地内側（庭園側）のみに確認され、煉瓦塀の隣地側にはなかった。煉瓦塀が防災だけではなく、主屋や離れから縁側越しに庭園を鑑賞した際の構成要素としても認識されていたことを示す。

大正7年（1918）までに買い足した短冊形敷地を平成30年（2018）の屋敷内配置図と重ねると、旧北国街道沿いには間口一杯まで塀が延長されたとわかる（図17）。

東塀の南端の部分は、平成30年（2018）9月に台風第21号の強風により、旧北国街道側に倒された。中原家ご当主と中原家保存会のご尽力により、破損した部材は保全された。その部材の記録を作成する機会をいただき、東塀の構造を把握できた。

図9に断面図を示した。旧北国街道沿いには560mmの高さまで3段に石を積み、庭園側の地盤に合わせていた。3段石垣の上に礎石を置き、土台を渡した。土台の上に4寸角の棟持柱を立て棟木を支えた。この棟持柱の上方で腕木を貫通させ、旧北国街道側と庭園側と380mm ずつ出し、棟木から軒桁に野地板を渡しブリキで葺いた。土台から棟押さえまでの高さは2,380mmあった。隣り合う棟持柱は、控え柱の上端より上方には1カ所、控え柱の上端より下方には3か所に貫を通して連結されていた。

庭園側には棟持柱から315mm離して控え柱を配し、棟持柱と上下2本の貫で連結した。貫は込み栓で留められていた。控え柱は庭園側の地盤面から1,400mmの高さに抑えられていた。地盤面から600mm深さの掘立柱となっていた。控え柱は下方三分の一を金輪や尻銚^{しりばさみ}で継いでいた。腐朽による更新を考慮したつくりと考えられる。

東塀は面内方向の横力に貫で耐え、面外方向の横力に控え柱の掘立部分のモーメントで耐える設計とわかった。平成30年（2018）9月の台風第21号の被害を受けた東塀は、控え柱の継ぎ手より下方部分が腐朽により失われていた。

控え柱には、丸太や湾曲部材が使われていた。込み栓を用い、主屋の座敷や離れから栓が目立たないようにしていた。東塀の庭園側には縦板が張られ、控え柱と併せて弁柄^{べんがら}が塗られていた。主屋の座敷や離れから庭園を鑑賞した際に、樹木の背景として控え柱と縦板が一体化する配慮と捉えられる。弁柄は南側隣地沿い煉瓦塀と同系色だった。

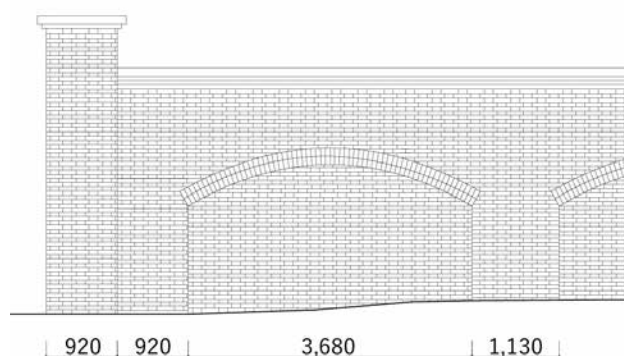


図8 庭園側をアーチ形に積んだ煉瓦塀

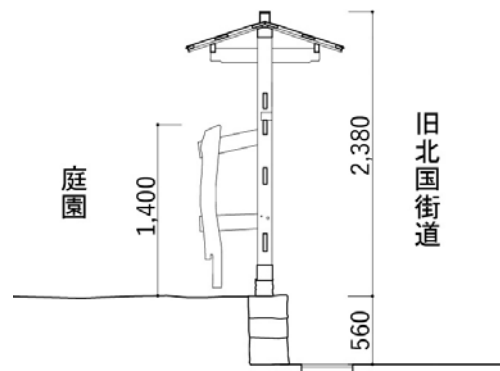


図9 庭園側に控え柱をもつ東塀

（4）大正期の南側への敷地間口の範囲と東塀の延長

東塀の棟持柱と土台の柄穴には番付が確認できた。図10にそれぞれの位置を示した。東塀の南端から北方向へ（図10の左端から右方向へ）、棟持柱に一から十までの漢数字が朱筆されていた。通し番号のY25からY34までの16.3mにあたる。

Y25より北側の棟持柱については4本の番付を確認できた。図10のY25より右側は、北方向から南方

向へ（図10の右から左へ）、二十一、二十二の黒字墨書があった。

このようにY25の柱より北側と南側では番付の付け方が異なっていた。また、土台の間柱を受ける^{ほぼ}柄穴の位置が異なっていた。Y25より南側のY34までの間柱の柄穴は棟持柱の芯よりも庭園側にあった。一方、Y25より北側の間柱の柄穴は、棟持柱の芯線上にあった。さらに棟持柱をつなぐ貫は、控え柱の下方にY25より南側では1本、Y25より北側では3本だった。番付や構法の相違はY25の南側と北側の設計や建築時期の相違を示す。

3節で述べたように、第25代当主が大正3年（1914）と大正7年（1918）に南側に買い足した短冊形敷地の間口は、地籍図上で17mだった（図5と図6）。これは一から十までの番付のある柱が並ぶ範囲16.3mと一致する。したがって、東塀のうち一から十までの番付のされた範囲は、大正7年（1918）頃に建てられたものと考えられる。また、Y25より北側の東塀は大正7年（1918）以前と考えられる。

東塀のY25より南側と北側の部分それぞれは、旧北国街道側も庭園側も外装の構成要素は変わらない。図11に東塀（Y25よりも南側）の柱間を示した。柱の右側が旧北国街道側、左側が庭園側にあたる。旧北国街道側は、高さ4尺、幅2間のパネルとした下見板を棟持柱に打っていた。下見板の割付は4尺を5枚割としていた。これは東塀全体に共通していた。昭和10年（1935）以前の旧北国街道側の写真にもこの外装が写っていた。なお図11の柱の左側に庭園側外装として張られた豎羽目板も、東塀全体で共通していた。第25代当主は、大正3年（1914）と大正7年（1918）に南側に買い足した短冊形敷地の旧北国街道側に既存の東塀と同じ外観の塀を増築したとわかった。

外装として幅2間のパネル化した下見板を付けることは珍しい。継ぎ目を目立たせず、将来の歪みを抑えた旧北国街道沿いの長い外観をすっきりとまとめる趣旨と捉えられる。腕木の鼻と軒桁の仕口を面一とした納まりも同じ趣旨と考えられる。

東塀は、図11に示すように、土台から棟木までの内法全体を土壁としていた。竹小舞を格子に組み、両端に竹楔を付け、両側の棟持柱と上下の土台や棟木に打っていた。塀を厚くしない工夫と捉えられる。下見板や豎板の内側も土壁としていたことから、東塀には延焼防止の役割があったとわかった。

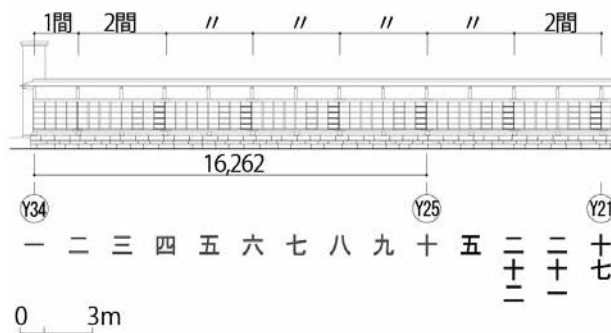


図10 柱の2種類の番付の範囲（東塀）

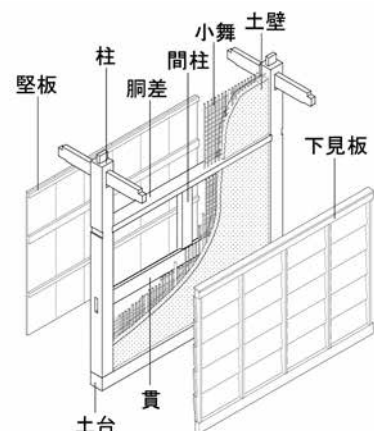


図11 土台から棟木までの土壁

（5）昭和前期の北側への敷地間口の拡大とその延長

第26代当主は、大正後期から昭和前期にかけて、中原家住宅の短冊形敷地を、北側方向に間口を拡大した。大正10年（1921）に中原家の墳墓地の北側に隣接する畑を買い足した。これにより中原家の敷地は旧小路から南側の短冊形の範囲となった。

大正11年（1922）に旧小路の旧北国街道から170mの旧小路を取得した。その後、大正12年（1923）に、第24代が取得した旧庄屋の畑、その北側の第25代が取得した畑とともに校地として譲渡した。旧庄屋の旧北国街道に面する宅地には、旧庄屋の転出により、昭和初期に郵便局や駐在所が建てられた。赤塚の住人のための施設を整備する方針は、新旧庄屋の土地利用に共通していた。小学校、郵便局、駐在所は旧北国街道からアプローチした。新たな施設においても、旧北国街道の正面性が保全された。

第26代は昭和10年（1935）に旧小路の北側に所持していた短冊形敷地の北側の隣地境界沿いに旧北

国街道から170m長さの通路を通し、道路として譲渡した。後ろ側で旧小路につなぎ、旧北国街道と旧馬車道のつながりを維持した。中原家の旧北国街道側の敷地間口は北側に14m拡大され、平成30年（2018）と同じ62mとなった。

拡大された範囲を平成30年（2018）の配置図でみた（図12）。表門から東塀が小路まで延び、旧北国街道と小路との交差点の角地に消防小屋が建つ。昭和10年（1935）頃の旧北国街道側の写真では、木造平屋建て瓦葺き、4尺を5枚割りとした下見板となっていた。旧北国街道側の引き違い戸から出入りした。平成30年（2018）には新潟市西消防団第12分団第3班消防器具置場となっていた。外装はサイディング張り、入口はシャッターに変更された。旧北国街道側からの出入りは変らなかった。

第26代当主は、北側に拡大した範囲の消防小屋の後ろ側を、庭園として整備した。とくに旧北国街道や小路に近い位置に4カ所の池を設けた（図12）。集落の防火に寄与する姿勢が第26代当主にも引き継がれていた。

平成30年（2018）に、敷地の旧北国街道側には、表門の親柱から北へ7,630mm北、さらに3,600mm北に道路境界の杭があり、旧小路の位置と幅員がわかった。表門の北側には消防小屋に当たるまで東塀が続いていた（図12のY2からY12）。このうちY2からY5からまでの柱の範囲5,336mmは、昭和10年（1935）に旧小路を塞ぐ形で増築されたとわかった。そして、Y5から表門方向の4本の柱の範囲4,941mmにある東塀と通用口は、昭和10年（1935）以前とわかった（図13）。腕木門形式の表門には墨書により昭和10年（1935）10月新築の墨書があり、それ以前の冠木門と塀の写真に、旧小路から通用口までの4本の柱の範囲が平成30年（2018）と同じ基礎、土台、屋根、下見板として写ることによる。

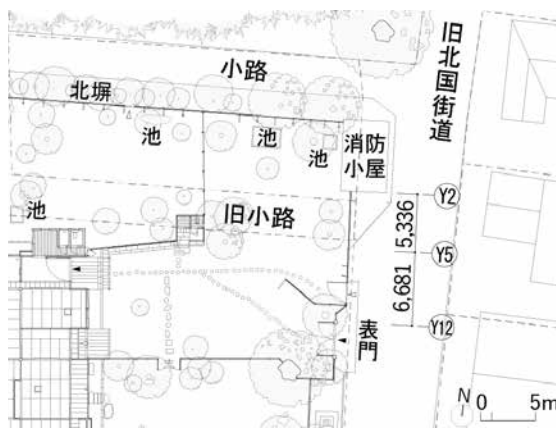


図12 北側への間口拡大と小路の移設

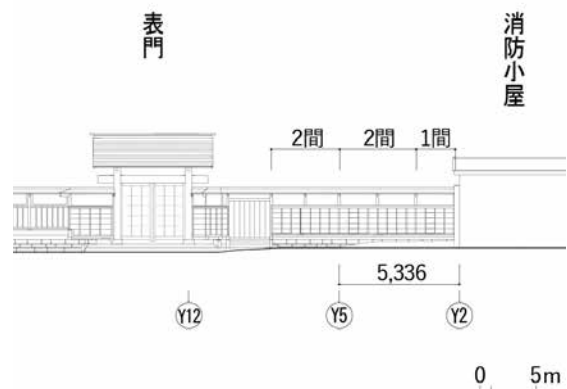


図13 旧小路の位置に増築された東塀

第26代当主は、各地で建設された明治天皇行幸60周年記念碑が赤塚では中原家の敷地内に建てられることになった際、旧北国街道に面した東塀の一部をコの字に改修し3m×5mの土地を提供し、併せて表門を冠木門から腕木門に変更したと考えられる（図14）。

表門の屋根は、垂木を使わず野地板でブリキ屋根を支える構法とした。これにより第24代当主が主屋再建にあたり保全した防火樹を保全した。図14の破線は、既存の防火樹の幹を避けて、2カ所を円形に切り抜いた屋根外形を示す。なお、腕木と野地板でブリキ屋根を支える構法は、東塀や北塀と共通していた。

昭和10年（1935）に北側に拡張された敷地の小路沿いには、樹木が一行に植えられ、その内側に北塀が建てられた（図15）。北塀は消防小屋から裏門まで60m延びていた。消防小屋から20m先までは、小路側を下見板張りとしていた。この下見板は高さ4尺を6枚割りとしていた。旧小路と冠木門を含む写真に、旧小路沿いの塀が写っていた。平成30年（2018）の北塀と同じ4尺を6枚割りだった。昭和10年（1935）の小路の移動に伴い、旧小路沿いの塀が移設された可能性もある。

平成30年（2018）には、北塀の消防小屋から10m先の軒裏に、4m長さの刺股2本が小路側軒裏に架けられていた（図15）。集落の住人から、火災時に延焼防止のため建物を倒すために使ったと聞いた。消防小屋に近く、小路側から取り出せることから、中原家に限らず集落内の火災の対処に使用されたと考えられる。



図14 樹木を避けて屋根を架けた表門

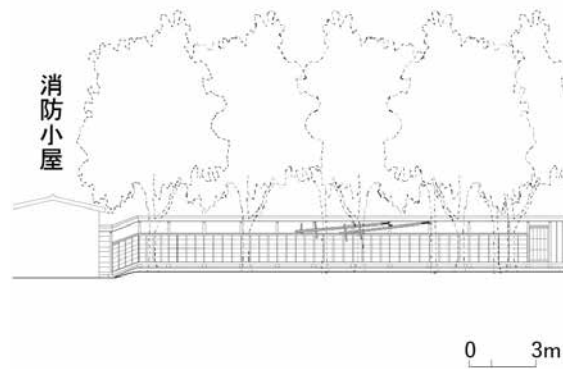


図15 小路沿い樹木の背景をなす北堀

第26代当主は、北側に拡大した敷地の旧北国街道側の消防小屋から後ろ側を庭園とした。その中に2室の続き間の「前座敷」を建てた。旧北国街道側を塀で区画し、座敷を次の間と縁側を介して、敷地後ろ側に広がる鑑賞庭へ向けた独立建物とした（図16）。鑑賞庭は二重の垣根で仕切った。第26代当主は農地解放後に維持費用の節減のため自らが建てた「前座敷」を売却した。一方で第25代や第24代による建物を保全した。

赤塚の旧北国街道の東側の屋敷の並びには、短冊形敷地の宅地と畑の境界、旧北国街道の約60m後ろ側に平行して「背割りミチ」と呼ばれる集落内通路が通る。第26代当主が北側に拡張した敷地の後ろ側に裏門を整備したことにより、旧北国街道の西側で集落内移動が確保された。裏門西側の味噌蔵は多くの住戸の味噌造りに開放された。秤蔵の東側は小路から裏門を経ての米の納入に利用された（図18）。また、秤蔵の西側は小路の北側の畑を経て赤塚小学校生徒の通学路として利用された。

こうした赤塚住人への利用の開放は、中原家が短冊形敷地の旧北国街道側から60mまでを宅地とする集落の土地利用秩序を保持したこと、そして第25代、第26代にわたり、主屋の後ろ側に中庭を整備し（図17）、自家のプライバシー保護と両立させたため可能となっていた。



図16 裏門方向に二重露地をもつ前座敷

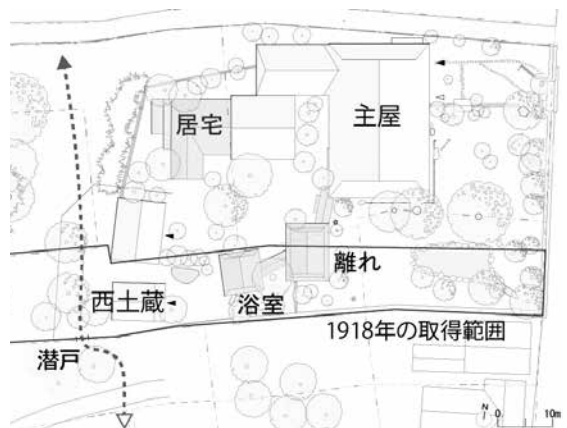


図17 南側方向の間口拡大と中庭の形成

昭和11年（1936）に旧馬車道が新潟県道2号として拡張整備された（図19）。第26代当主は旧馬車道沿いに所有した多くの畑を提供した。屋敷地内では第25代が取得し松林とした畑の南側に、バス停留所の上屋を建てた。中原家の通用口のすぐ北側に位置した。赤塚の住人は旧北国街道から中原家北側の小路を通りバスを利用できた。

このことから第26代当主は、新潟県道の整備に当たって、旧北国街道沿いを表側とし馬車道側を裏とした屋敷構えの方向性を保持したとわかった。



図18 集落内移動のための背割ミチ



図19 県道整備と屋敷構えの方向性

以上、中原家住宅の第24代、第25代、第26代当主の期間における屋敷構えの変化を通して見た。近世末から昭和中期まで、敷地面積の増減と、建物の新築、増築、減築を経ている。その中で各当主は、時代に合わせて、各代の責任の範囲で新築したり、移築したり、増築したり、減築したりしていた。先代の家屋を除却することなく、時代に合わせて屋敷や集落にとっての意味を見だし利用していた。各代に共通して集落レベルの防災への寄与と旧北国街道を正面とする秩序が受け継がれていた。それは赤塚の集落としての土地利用秩序を保持することにつながっていた。これが中原家住宅の短冊形の敷地単位が保たれ、屋敷構えが現在まで持続する根拠と考えられる。

(6) 謝辞

本稿の根拠となった実測調査は、ご当主の中原堯之氏ならびに新潟市歴史文化課の皆様の全面的なご協力により実施できました。中原家保存会の皆様には多くのご協力とご教示をいただきました。当時新潟大学大学院の野澤雄一郎氏には修士論文「近代を通して見た上層農家の屋敷構えの保全と集落の発展－新潟市西区赤塚〈N家〉を対象として－」の図版にもとづき図を作成する了承をいただきました。衷心よりの感謝の意を表します。

Ⅲ 資 料

1 国・県・市指定文化財、国登録文化財一覧表

(1) 国・県・市指定文化財（平成31年3月31日現在）

区分	No.	種類	種別	名 称	員数	指定年月日	所 在 地	所有者・管理者	備 考	旧市町村名	区名
国	1	有	建	旧笹川家住宅	11棟	S29.3.20 S53.5.31 H35.3.30	南区味方216	新潟市	文政年間	味方村	南区
国	2	有	建	新潟県議会旧議事堂 附 棟札2枚	1棟	S44.3.12	中央区一番堀通町3-3	新潟県	明治15年	新潟市	中央区
国	3	有	建	旧新潟税関庁舎 附 棟札1枚	1棟	S44.6.20	中央区緑町3437-8	文部科学省・新潟市	明治2年	新潟市	中央区
国	4	有	建	種月寺本堂 附 棟札2枚	1棟	H19.2	西蒲区石瀬	種月寺	元禄12年	岩室村	西蒲区
国	5	有	建	萬代橋	1基	H16.7.6	中央区万代から中央区下大川前通・ 中央区川端町間	国土交通省	昭和4年	新潟市	中央区
国	6	有	絵	絹本着色不動明王二童子像	1幅	S27.7.19	中央区沼垂東	法光院	鎌倉後期	新潟市	中央区
国	7	有	彫	木造地藏菩薩半跏像	1躯	S12.5.25	秋葉区小須戸	茂林寺	南北朝期	小須戸町	秋葉区
国	8	有	工	彩磁磁果文花瓶 板谷波山作	1口	H18.6.9	中央区東大通	公益財団法人敦井コレク ション	大正15年	新潟市	中央区
国	9	有	書	雪村友梅墨跡梅花詩	1幅	S35.6.9	江南区沢海	一般財団法人北方文化博 物館	南北朝期	横越町	江南区
国	10	有	考	越後国菖蒲古墳経塚出土品	一括	S37.2.2	中央区柳島町2-10 歴史博物館内	金仙寺・新潟市	平安後期	巻町	中央区
国	11	民	有民	金刀比羅神社奉納模型和船	28点	S40.6.9	中央区西厩島町	金刀比羅神社	江戸後期～明治中期	新潟市	中央区
国	12	記	史	菖蒲塚古墳		S5.4.25	西蒲区竹野町	金仙寺ほか・新潟市	古墳前期	巻町	西蒲区
国	13	記	史	旧新潟税関		S44.6.20 S55.2.19 H30.10.15	中央区緑町3437ほか	文部科学省・新潟市	明治2年	新潟市	中央区
国	14	記	史	古津八幡山遺跡		H17.7.14 H23.2.7	秋葉区金津、秋葉区古津、 秋葉区蒲ヶ沢	新潟市他	弥生～古墳	新津市	秋葉区
国	15	記	史	新津油田金津鉱場跡		H30.10.15	秋葉区金津	新潟市・個人	明治初期～平成8年	新潟市	秋葉区
国	16	記	名	旧齋藤氏別邸庭園		H27.3.10	中央区西大畑町576-2ほか	新潟市	大正9年	新潟市	中央区
国	17	記	名	白山公園		H30.10.15	中央区一番堀通町1-2ほか	財務省・新潟市	明治初期	新潟市	中央区
国	18	記	天	鳥屋野逆ヶケの藪		T11.10.12	中央区鳥屋野	新潟市・個人		新潟市	中央区
国	19	記	天	月潟の類産ナシ	1本	S16.11.13	南区大別當	個人・新潟市	樹齢約200年	月潟村	南区
国	20	記	天	ヒシクイ		S46.6.28	新潟県	新潟県	県全域	県全域	全域 (北区)
国	21	記	天	マガン		S46.6.28	新潟県	新潟県	県全域	県全域	全域 (北区)
県	1	有	建	諏訪神社本殿	1棟	S61.3.28	南区味方	味方自治会	慶長15年再建	味方村	南区
県	2	有	絵	渭城柳色 大雅筆 附大雅書「渭城柳色」	1幅	S33.3.22	中央区東大通	公益財団法人敦井コレク ション	延享元年	新潟市	中央区
県	3	有	絵	絹本着色三千仏図	3幅	S44.3.25	中央区沼垂東	法光院	寛正7年	新潟市	中央区
県	4	有	絵	絹本着色慈恩大師像	1幅	S47.3.28	中央区沼垂東	法光院	鎌倉末期	新潟市	中央区
県	5	有	彫	木造菩薩立像	1躯	S27.12.10	中央区西堀通	瑞光寺	平安前期	新潟市	中央区
県	6	有	彫	木造薬師如来坐像	1躯	S41.3.18	東区松崎薬師庵内	法光院	平安後期	新潟市	東区
県	7	有	彫	木造阿弥陀如来立像	1躯	S52.3.31	中央区柳島町2-10 歴史博物館内	西永寺・(歴史博物館)	平安後期	白根市	中央区
県	8	有	彫	銅造観音菩薩立像	1躯	H21.3.24	西蒲区赤鎗	遍照寺	奈良	巻町	西蒲区
県	9	有	彫	木造伝畠山重宗夫妻坐像	2躯	H21.3.24	中央区長嶺町	蒲原神社	建武元年	新潟市	中央区
県	10	有	工	太刀(無銘)	1口	S40.4.7	江南区沢海	一般財団法人北方文化博 物館	鎌倉末期(S61盗難に遭い 紛失)	横越町	江南区
県	11	有	書	南英謙宗墨跡書籍	22冊	S29.2.10	西蒲区石瀬	種月寺	室町後期	岩室村	西蒲区
県	12	有	書	長善館学塾資料	一括283点	S42.3.25	中央区女池南 県立文書館内	新潟県立文書館	江戸後期	新潟市	中央区
県	13	有	書	桂家国学関係資料	一括508点	S42.3.25	中央区女池南 県立文書館 秋葉区中村	個人	江戸後期	新津市	中央区
県	14	有	古	堀直奇文書	56点	S39.3.22	西区五十嵐 新潟大学附属図書館内	国立大学法人新潟大 学	江戸初期	新潟市	西区
県	15	有	古	市島家文書	16,528点	S47.3.28	中央区女池南 県立文書館内	新発田市・ 新潟県立文書館	江戸～昭和期	新潟市	中央区

区分	No	種類	種別	名 称	員数	指定年月日	所 在 地	所有者・管理者	備 考	旧市町村名	区名
県	16	有	古	渡部家文書	2582点	H12.3.24	中央区女池南県立文書館内	個人・新潟県立文書館	江戸中期～明治期	新潟市	中央区
県	17	有	考	龍鏡(越後国菖蒲塚古墳出土)	1面	S37.3.29	東京国立博物館	個人	古墳前期	巻町	西蒲区
県	18	有	考	木崎山出土地鎮具	一括	S59.3.27	秋葉区金津93-1 県埋蔵文化財センター内	新潟県教育委員会	鎌倉	新津市	秋葉区
県	19	有	考	の場遺跡出土品	一括	H8.3.29	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市	奈良・平安	新潟市	西区
県	20	有	考	五丁歩遺跡出土品	一括1,394点	H13.3.23	秋葉区金津93-1 県埋蔵文化財センター内	新潟県教育委員会	縄文中期	新津市	秋葉区
県	21	有	考	浦廻遺跡出土品	一括2,160点	H16.3.30	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市	鎌倉後期	新津市	西区
県	22	有	考	上ノ平遺跡・吉ヶ沢遺跡出土品	一括1,103点	H17.3.25	秋葉区金津93-1 県埋蔵文化財センター内	新潟県教育委員会	後期旧石器時代	新津市	秋葉区
県	23	有	考	青田遺跡出土品	一括2,076点	H21.3.24	秋葉区金津93-1 県埋蔵文化財センター内	新潟県教育委員会	縄文晩期	新津市	秋葉区
県	24	有	考	滝寺窯跡群・大貫窯跡群土品	一括1,012点	H23.3.22	秋葉区金津93-1 県埋蔵文化財センター内	新潟県教育委員会	平安時代	新津市	秋葉区
県	25	有	考	南赤坂遺跡出土品	110点	H25.3.26	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市	古墳前期	巻町	西区
県	26	有	考	余川中道遺跡出土品	255点	H26.3.25	秋葉区金津93-1 県埋蔵文化財センター内	新潟県教育委員会	古墳中期～後期	新津市	秋葉区
県	27	有	歴	学塾三餘堂関係資料 附 印章類125顆	一括	H9.3.28 H11.3.30	中央区女池南県立図書館・ 東区東中野山	新潟県立図書館・ 個人	江戸～明治	新潟市	中央区
県	28	有	歴	新潟市上水道敷設関係資料	一括258点	H15.3.28	中央区学校町通1-602-1 歴史文化課内	新潟市	明治中期～昭和初期	新潟市	中央区
県	29	有	歴	亀田町上水道敷設関係資料	一括4点	H15.3.28	江南区茅野山3-1-14 江南区郷土資料館内	新潟市	昭和初期	亀田町	江南区
県	30	有	歴	新潟奉行川村修就関係資料	1,859点	H25.3.26	中央区柳島町2-10 歴史博物館内	新潟市	江戸後期	新潟市	中央区
県	31	有	歴	新潟県近代行政文書	2,465点	H29.3.21	中央区女池南 県立文書館内	新潟県	明治期～大正期	新潟市	中央区
県	32	民	有民	大船絵馬	1面	S44.3.25	中央区一番堀通町	白山神社	嘉永5年	新潟市	中央区
県	33	民	風	越後の風合戦習俗	3	H27.3.24	南区白根・西白根 三条市上須頃 見附市今町・長岡市中之島	白根風合戦協会 三条風協会 今町中之島大風合戦協会	江戸期	白根市	南区
県	34	記	史	的場遺跡		H6.3.29	西区の場流通1	稲荷神社・新潟市	奈良～平安	新潟市	西区
県	35	記	史	緒立遺跡		H6.3.29	西区黒鳥字川根湯・西区緒立流通2	緒立八幡宮・新潟市	奈良～平安	黒埼町	西区
県	36	記	名	浄専寺庭園		H2.3.30	西蒲区石瀬	浄専寺	文化～文政年間	岩室村	西蒲区
県	37	記	天	高森の大ケヤキ	1本	S31.3.23	北区高森	稲荷神社・高森自治会	樹高m20m,胸高周り10m	豊栄市	北区
県	38	記	天	間瀬枕状熔岩		S36.3.20	西蒲区間瀬	新潟市		岩室村	西蒲区
県	39	記	天	八珍柿原木	1本	S37.3.29	秋葉区古田	個人	樹高m16m,胸高周り2m	新津市	秋葉区
県	40	記	天	賀茂神社の大ケヤキ	1本	S42.3.25	江南区木津	賀茂神社	高さm9m,胸高周囲6.4m	横越町	江南区
市	1	有	建	木場八幡宮本殿	1棟	S48.4.15	西区木場	木場八幡宮	江戸	黒埼町	西区
市	2	有	建	阿部家仏間	1棟	S48.4.15	西区黒鳥	個人	江戸	黒埼町	西区
市	3	有	建	長徳寺の山門	1棟	S49.3.23	西蒲区横戸	長徳寺	天保9年	湯東村	西蒲区
市	4	有	建	善養寺の山門	1棟	S49.3.23	西蒲区熊谷	善養寺	文政元年	湯東村	西蒲区
市	5	有	建	新光寺山門	1棟	S50.10.1	西蒲区高野宮	新光寺	享保年間	中之口村	西蒲区
市	6	有	建	横越組大庄屋建部尚行の碑	1基	S51.6.20	江南区横越東町	個人	江戸末期	横越町	江南区
市	7	有	建	諏訪神社本殿	1棟	S53.4.1	西区金巻	諏訪神社	江戸	黒埼町	西区
市	8	有	建	妙蓮寺山門	1棟	S53.4.14	秋葉区東島	妙蓮寺	文政9年	新津市	秋葉区
市	9	有	建	満徳寺経堂	1棟	S55.7.16	南区大別當	満徳寺	天保14年	月潟村	南区
市	10	有	建	福浄寺本堂	1棟	S56.5.25	西区板井	福浄寺	江戸	黒埼町	西区
市	11	有	建	善光寺如来堂	1棟	H8.10.16	西蒲区善光寺	善光寺	明和8年	西川町	西蒲区
市	12	有	建	愛宕神社 本殿・拝殿	2棟	H13.11.3	中央区古町通	愛宕神社	18世紀	新潟市	中央区
市	13	有	建	法淳寺本堂	1棟	H13.11.3	北区濁川	法淳寺	17世紀末期	新潟市	北区
市	14	有	建	真光寺太子堂	1棟	H13.11.3	江南区松山	真光寺	安永7年	新潟市	江南区
市	15	有	建	復原 澤将監の館 母屋・土蔵・表門	3棟	H16.1.20	西蒲区打越甲434	新潟市	平成6年復原	中之口村	西蒲区
市	16	有	建	旧小澤家住宅 主屋・新座敷・離れ座敷他	7棟	H18.8.24	中央区上大川前通12-2733	新潟市	明治前期 (明治末期増改築)	新潟市	中央区
市	17	有	絵	絹本着色地藏菩薩像	1幅	S37.3.29	西蒲区巻甲	安養寺	平安	巻町	西蒲区
市	18	有	絵	絹本着色不動明王二童子像	1幅	S38.3.28	西蒲区巻甲	個人	室町	巻町	西蒲区
市	19	有	絵 (書)	大黒天図 五十嵐浚明筆 竹内式部賛	1幅	S49.11.3	中央区柳島町2-10 歴史博物館内	新潟市	江戸中期	新潟市	中央区

区分	No	種類	種別	名 称	員数	指定年月日	所 在 地	所有者・管理者	備 考	旧市町村名	区名
市	20	有	絵	五十嵐澄明筆 三十六歌仙図 扁額	1面	S49.11.3	中央区西大畑町 新潟大神宮内	新潟大神宮	江戸中期	新潟市	中央区
市	21	有	絵	顕如上人親鸞聖人絵像裏書	2巻	S50.9.16	西蒲区曾根	個人	江戸初期	西川町	西蒲区
市	22	有	絵	行田魁庵筆「新潟入船之図」	1幅	S51.11.2	中央区柳島町2-10 歴史博物館内	個人・新潟市	明治4年	新潟市	中央区
市	23	有	絵	五姓田芳柳筆「新潟萬代橋」図	1幅	S53.11.3	中央区柳島町2-10 歴史博物館内	新潟市	明治21年	新潟市	中央区
市	24	有	絵	宗賢寺歴世住職肖像画	19幅	S54.2.9	江南区横越東町	宗賢寺	元文4年	横越町	江南区
市	25	有	絵	本間家愍震菴鑑(文政地震画帖)	1冊	S55.3.22	秋葉区市之瀬	個人	文政11年以降	新津市	秋葉区
市	26	有	絵	長井雲坪筆四季山水図六曲屏風	1双	S55.11.1	中央区柳島町2-10 歴史博物館内	個人・新潟市	明治25年	新潟市	中央区
市	27	有	絵	山論裁定絵図と山論関係記録	絵図4面 記録21点	S56.5.27	秋葉区金津	個人	元禄年間	新津市	秋葉区
市	28	有	絵	普談寺絵馬	2枚 (1対)	S57.2.17	秋葉区朝日	普談寺	江戸初期	新津市	秋葉区
市	29	有	絵	五姓田芳柳筆 八木朋直肖像	1幅	S57.11.3	中央区柳島町2-10 歴史博物館内	新潟市	明治20年	新潟市	中央区
市	30	有	絵	五姓田芳柳筆 鈴木長蔵肖像	1面	S57.11.3	中央区柳島町2-10 歴史博物館内	新潟市	明治18年	新潟市	中央区
市	31	有	絵	五姓田芳柳筆 帆橋成林	1面	S57.11.3	中央区礎町通	個人	明治	新潟市	中央区
市	32	有	絵	書画帖	3冊	H33.18	秋葉区新保	個人	安政3年	小須戸町	秋葉区
市	33	有	絵	絵馬(頼光入山の図・虎と松・三十六歌仙)	3点	H58.1	江南区東本町	亀田諏訪社	江戸	亀田町	江南区
市	34	有	絵	味方諏訪神社 献詠詩歌	3点	H8.12.26	南区味方	味方自治会	寛延4年	味方村	南区
市	35	有	彫	木造阿弥陀如来立像	1躯	S37.3.29	西蒲区潟頭	個人	平安	巻町	西蒲区
市	36	有	彫	木造角海浜聖観世音菩薩像	1躯	S42.3.30	西蒲区五ヶ浜	(大字角海)・ 五ヶ浜自治会	江戸	巻町	西蒲区
市	37	有	彫	聖観音像	1躯	S48.3.30	西蒲区茨島	茨島観音講	元文期以前	潟東村	西蒲区
市	38	有	彫	木造地藏菩薩立像	1躯	S50.2.24	南区庄瀬	潮山寺	16世紀後半	白根市	南区
市	39	有	彫	三十三観音像	33躯	S50.10.1	西蒲区打越	浦川講中	承応元年	中之口村	西蒲区
市	40	有	彫	天正の舶犬	1対	S50.10.1	西蒲区打越	浦川講中	不明	中之口村	西蒲区
市	41	有	彫	善養寺の阿弥陀如来像	1躯	S55.4.1	西蒲区熊谷	善養寺	平安	潟東村	西蒲区
市	42	有	彫	木造阿弥陀如来立像	1躯	S55.7.16	南区上曲通	梵行寺	室町初期	月潟村	南区
市	43	有	彫	木造聖観音菩薩立像	1躯	S58.3.22	江南区横越上町	観音小路氏子中	室町	横越町	江南区
市	44	有	彫	地藏菩薩像	1躯	S61.9.17	江南区砂山	砂崩地藏講	江戸初期	亀田町	江南区
市	45	有	彫	亀田八景 版本	5枚	H58.1	江南区茅野山3-1-14 江南区郷土資料館内	新潟市	弘化4年	亀田町	江南区
市	46	有	彫	善光寺如来堂本尊	3躯	H8.10.16	西蒲区善光寺	善光寺区長	室町～江戸期	西川町	西蒲区
市	47	有	彫	光明院木造薬師如来像	1躯	H14.3.26	江南区木津	光明院	平安～鎌倉期	横越町	江南区
市	48	有	彫	木造如来座像	1躯	H14.12.25	西蒲区岩室温泉	岩室どん坂阿弥陀講中	鎌倉後期～南北朝前期	岩室村	西蒲区
市	49	有	彫	木造聖観音坐像	1躯	H30.3.14	西蒲区竹野町2676	金仙寺	鎌倉末期	巻町	西蒲区
市	50	有	工	古瀬戸鉄釉瓶子	1口	S36.3.16	西蒲区巻甲3069-1 巻郷土資料館内	新潟市	鎌倉末期	巻町	西蒲区
市	51	有	工	誕生釈迦仏立像	1躯	S45.4.1	西区板井	個人	不明	黒埼町	西区
市	52	有	工	刀装エソ拵え	1点	S47.3.30	中央区学校町通1-602-1 歴史文化課内	新潟市	不明	黒埼町	中央区
市	53	有	工	鯉口貞治七戊申年銘 附天保十一年 丹羽思亭拓本識語1幅	1口	S51.11.2	中央区沼垂東	沼垂白山神社	貞治7年	新潟市	中央区
市	54	有	工	刀剣	2振	S52.3.22	南区西白根	個人	桃山期	味方村	南区
市	55	有	工	赤絵花菱唐草文灯籠	1対	S58.3.31	北区太子堂	上宮社 管理者:太子堂自治会	明治	豊栄市	北区
市	56	有	工	武者絵深鉢	1点	S58.3.31	北区嘉山3452 北区郷土博物館内	新潟市	明治	豊栄市	北区
市	57	有	工	鍔金装笈	1点	H7.9.12	西蒲区石瀬	青龍寺	室町末期	岩室村	西蒲区
市	58	有	工	山崎興野地内出土の懸仏	2躯	H17.2.9	南区下山崎、南区山崎興野	個人	室町～戦国期	白根市	南区
市	59	有	工	色絵金彩梅鶯松蟬図花瓶	2点	H17.3.18	北区嘉山3452 北区郷土博物館内	新潟市	明治	豊栄市	北区
市	60	有	工	染付藻魚図平鉢	1点	H17.3.18	北区嘉山3452 北区郷土博物館内	新潟市	明治	豊栄市	北区
市	61	有	書	良寛書 双幅「いろは一二三」	2幅	S35.2.12	西蒲区松野尾	個人	江戸	巻町	西蒲区
市	62	有	書	良寛書 振仮名付十大願文	1巻	S37.3.29	西蒲区巻甲	個人	江戸	巻町	西蒲区
市	63	有	書	日寿筆 祖書綱要冊略稿本	7冊	S38.3.30	西蒲区角田浜	妙光寺	江戸	巻町	西蒲区
市	64	有	書	懷旧歳時記	2冊	S41.3.29	西蒲区巻甲	個人	明治9年	巻町	西蒲区

区分	No.	種類	種別	名 称	員数	指定年月日	所 在 地	所有者・管理者	備 考	旧市町村名	区名
市	65	有	書	良寛書 長谷川家法名	1幅	S42.3.30	西蒲区角田浜	個人	江戸	巻町	西蒲区
市	66	有	書	松丘立生詩歌集	1冊	S43.3.8	西蒲区巻甲	個人	江戸期	巻町	西蒲区
市	67	有	書	館柳清遺品(書翰・印刻・看板・墨書)	一括	S45.3.27	東区河渡	株式会社養玲社	江戸期	新潟市	東区
市	68	有	書	水沢新田村御検地帳並に古文書	一括	S48.3.30	西蒲区三方92 潟東歴史民俗資料館内	新潟市	承応年間～明治10年	潟東村	西蒲区
市	69	有	書	下大原村御検地帳並に地図	一括	S48.3.30	西蒲区三方92 潟東歴史民俗資料館内	新潟市	享保11年	潟東村	西蒲区
市	70	有	書	白根紙鳶合戦見聞記	1巻	S48.4.12	南区白根	個人	弘化4年	白根市	南区
市	71	有	書	竹内式部書 「松」一字 五言対句	1幅	S49.11.3	中央区柳島町2-10 歴史博物館内	新潟市	江戸中期	新潟市	中央区
市	72	有	書	竹内式部書 一行 白圭之玷云々	1幅	S49.11.3	中央区西大畑町	個人	江戸中期	新潟市	中央区
市	73	有	書	竹内式部筆 三宅島流人罪名帳 断簡	1枚	S49.11.3	中央区柳島町2-10 歴史博物館内	新潟市	明和4年	新潟市	中央区
市	74	有	書	五之上村御検地帳 御米印帳	2冊	S51.3.9	西蒲区五之上	個人	慶安2年、慶応4年	潟東村	西蒲区
市	75	有	書	蓮徳寺一切経	1,160冊	S53.4.14	秋葉区西島	蓮徳寺	寛文年間	新津市	秋葉区
市	76	有	書	獅子踊り歌詞秘書	5巻	S55.3.22	秋葉区日宝町6-2 新津図書館内	小戸下組獅子保存会・ 新潟市	文化10年	新津市	秋葉区
市	77	有	書	万福寺九世悦巖素圀遺墨	5点	S61.3.28	西蒲区仁箇	万福寺	江戸	巻町	西蒲区
市	78	有	書	亀田鵬斎書 山茶之亭扁額	1面	S61.3.28	西蒲区松野尾	個人	文化7年	巻町	西蒲区
市	79	有	書	小須戸町屋舗絵図面	1枚	H3.3.18	秋葉区小須戸	個人	文政9年	小須戸町	秋葉区
市	80	有	書	本住寺棟札	7枚	H3.3.18	秋葉区横川浜	本住寺	永禄元年	小須戸町	秋葉区
市	81	有	書	小泉蒼軒文庫	一括	H5.1.20	秋葉区日宝町6-2 新津図書館内	個人・新潟市	江戸末期	新津市	秋葉区
市	82	有	書	真宗本山講中「御書」	3巻	H5.12.14	西蒲区打越甲434 澤将監の館内	打越婦人講 他・ 新潟市	文政8年	中之口村	西蒲区
市	83	有	書	香月堂鶯宿関係資料 (盛弘社芭蕉講軸物ほか)	19種	H6.2.18	西蒲区曾根1951 西川学習館内	新潟市	大正～昭和5年	西川町	西蒲区
市	84	有	書	香月堂鶯宿関係資料 (山口嵐更半折ほか)	4点	H6.2.18	西蒲区曾根1951 西川学習館内	新潟市	大正～昭和5年	西川町	西蒲区
市	85	有	書	年中故事	6冊	H6.3.30	西蒲区巻甲3069-1 巻郷土資料館内	新潟市	弘化3～慶応2年	巻町	西蒲区
市	86	有	書	良寛書 有則堂	1幅	H6.3.30	西蒲区角田浜	願正寺	江戸	巻町	西蒲区
市	87	有	書	巻菱湖筆 司空表聖詩品二十四章	2帖	H11.9.29	西蒲区巻甲3069-1 巻郷土資料館内	新潟市	江戸	巻町	西蒲区
市	88	有	書	武田信玄・勝頼の感状	1幅(2点)	H16.1.20	西蒲区打越甲434 澤将監の館内	個人・新潟市	16世紀	中之口村	西蒲区
市	89	有	書	有願筆の屏風・掛軸	28点	H17.2.9	南区新飯田ほか	個人	江戸末期	白根市	南区
市	90	有	古	慶長五年巻村検地帳	1冊	S36.3.16	西蒲区巻甲3069-1 巻郷土資料館内	新潟市	慶長5年	巻町	西蒲区
市	91	有	古	越前国小橋屋村御検地帳	1冊	S38.3.30	西蒲区巻甲	個人	慶長3年	巻町	西蒲区
市	92	有	古	慶安三年蒲原郡松尾村人御改帳	1冊	S43.3.8	西蒲区松山新田	個人	慶安3年	巻町	西蒲区
市	93	有	古	笛木家文書	400点	S44.3.15	西蒲区中郷屋	個人	江戸	巻町	西蒲区
市	94	有	古	龍島黒印状	1幅	S40.3.24	西蒲区巻甲	城願寺	天正18年	巻町	西蒲区
市	95	有	古	延宝三年乙卯・地境出入御裏書絵図並に 附帯文書1通	1巻	S48.3.30	西蒲区巻甲3069-1 巻郷土資料館内	新潟市	江戸	巻町	西蒲区
市	96	有	古	倉嶋家文書	677点	S48.6.18	北区嘉山3452 北区郷土博物館内	新潟市	江戸～	豊栄市	北区
市	97	有	古	年貢割付状及皆済目録	181通	S50.9.16	西蒲区真田	個人	江戸～明治初期	西川町	西蒲区
市	98	有	古	承応3年～明治初年庄屋文書	269通	S52.3.4	西蒲区善光寺	個人	江戸～明治初期	西川町	西蒲区
市	99	有	古	真柄家石油関係資料	70点	S53.4.14	秋葉区柄目木、秋葉区日宝町6-2 新津図書館内	個人・新潟市	慶長18年～明治33年	新津市	秋葉区
市	100	有	古	澤田家能代川堰関係資料	26点	S53.4.14	秋葉区草水町	個人	天正8年～昭和16年	新津市	秋葉区
市	101	有	古	土屋家文書	607点	S54.2.27	西蒲区西汰上	個人	江戸～明治中期	西川町	西蒲区
市	102	有	古	黒島村諸色書上帳	1冊	S54.4.1	中央区学校町通1-602-1 歴史文化課内	新潟市	江戸	黒埼町	中央区
市	103	有	古	高橋(武田)源助の書簡	1通	S54.4.1	西区木場	個人	江戸	黒埼町	西区
市	104	有	古	小山家所蔵古文書	58点	S57.7.21	西区大野町	個人	江戸	黒埼町	西区
市	105	有	古	梨栄造青秘鑑及び証文	1式	H26.28	南区東薬場	個人	天明2年	白根市	南区
市	106	有	古	石井家文書	88点	H55.27	江南区沢海	一般財団法人 北方文化博物館	江戸～明治期	横越町	江南区
市	107	有	古	割野新田開発許可状	1枚	H5.8.1	江南区茅野山3-1-14 江南区郷土資料館内	個人	寛永13年	亀田町	江南区
市	108	有	古	越前浜村立許可状	1枚	H6.3.30	西蒲区巻甲	個人	慶長16年	巻町	西蒲区
市	109	有	古	澤家文書	552点	H16.1.20	西蒲区打越甲434 澤将監の館内	新潟市	江戸～大正	中之口村	西蒲区

区分	No.	種類	種別	名 称	員数	指定年月日	所 在 地	所有者・管理者	備 考	旧市町村名	区名
市	110	有	古	寛政二庚戌年福島潟絵図	1点	H17.3.18	北区嘉山3452 北区郷土博物館内	照善寺 北区郷土博物館	寛政2年	豊栄市	北区
市	111	有	考	布目遺跡出土尖底深鉢形土器	1個	S38.3.30	東京国立博物館	個人	縄文前期	巻町	西蒲区
市	112	有	考	自然釉甕	1個	S41.3.29	西蒲区巻甲3069-1 巻郷土資料館内	竹野町地区所有 新潟市	鎌倉末期	巻町	西蒲区
市	113	有	考	緒立土器	一括	S47.3.30	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市教育委員会	縄文～中世	黒埼町	西区
市	114	有	考	五ヶ浜須恵器甕	1個	S51.3.9	西区木場2748-1 文化財センター内	五ヶ浜地区所有 新潟市	平安	巻町	西蒲区
市	115	有	考	中才遺跡出土品	一括	S52.3.4	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市教育委員会	平安	西川町	西区
市	116	有	考	市内遺跡出土品	72点	S58.3.31	北区嘉山3452 北区郷土博物館内	新潟市	縄文～平安	豊栄市	北区
市	117	有	考	鳥屋遺跡発掘調査出土品	一括	S59.4.1	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市教育委員会	縄文	豊栄市	西区
市	118	有	考	上黒山遺跡出土品	一括	S59.4.1	北区嘉山3452 北区郷土博物館内	新潟市	縄文～古墳	豊栄市	北区
市	119	有	考	本町中世石仏	1体	H5.1.20	秋葉区新津本町	福王寺	中世	新津市	秋葉区
市	120	有	考	大鹿諏訪神社中世石仏	1体	H5.1.20	秋葉区大鹿	諏訪神社	中世	新津市	秋葉区
市	121	有	考	盛岩寺中世石仏	3体	H5.1.20	秋葉区大安寺	盛岩寺	中世	新津市	秋葉区
市	122	有	考	馬場屋敷遺跡出土品	3,017点	H5.7.14	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市教育委員会	鎌倉後期	白根市	西区
市	123	有	考	的場遺跡出土品(県指定分は除く)	一括	H5.11.3	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市教育委員会	縄文～中世	新潟市	西区
市	124	有	考	笹山前遺跡出土縄文時代の深鉢形土器	1点	H10.3.24	中央区柳島町2-10 歴史博物館内	新潟市教育委員会	縄文	新潟市	中央区
市	125	有	考	新谷遺跡出土浅鉢形土器	1点	H11.9.29	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市教育委員会	縄文前期	巻町	西区
市	126	有	考	南赤坂遺跡出土「の」字状垂飾	1点	H11.9.29	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市教育委員会	縄文前期～中期	巻町	西区
市	127	有	考	大沢遺跡出土中期前葉縄文土器	12点	H11.9.29	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市教育委員会	縄文中期	巻町	西区
市	128	有	考	上ノ原遺跡採集石槍	1点	H11.9.29	西区木場2748-1 文化財センター内	個人	縄文後期	巻町	西区
市	129	有	考	上ノ原遺跡出土「深靴」土偶	1点	H11.9.29	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市教育委員会	縄文後期	巻町	西区
市	130	有	考	御井戸遺跡出土縄文時代木製品	9点	H11.9.29	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市教育委員会	縄文晩期	巻町	西区
市	131	有	考	山谷古墳出土品	一括	H11.9.29	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市教育委員会	古墳前期	巻町	西区
市	132	有	考	南赤坂遺跡出土古墳時代北方系土器 (県指定分は除く)	一括	H11.9.29	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市教育委員会	古墳前期	巻町	西区
市	133	有	考	前平野窯跡出土須恵器	1点	H11.9.29	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市教育委員会	平安	巻町	西区
市	134	有	考	沙山遺跡出土中世釣針	一括	H11.9.29	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市教育委員会	室町	巻町	西区
市	135	有	考	葛塚遺跡出土朱塗り線刻物画土器	1個体	H14.3.8	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市教育委員会	古墳前期	豊栄市	西区
市	136	有	歴	検見樋	1脚	S38.3.28	西蒲区巻甲3069-1 巻郷土資料館内	新潟市	江戸	巻町	西蒲区
市	137	有	歴	豊栄市役所文書	6,834点	S46.8.30 H17.3.18	北区嘉山3452 北区郷土博物館内	新潟市	江戸～	豊栄市	北区
市	138	有	歴	佐藤家文書	3,112点	S46.8.30 H17.3.18	北区嘉山3452 北区郷土博物館内	新潟市	江戸～明治初期	豊栄市	北区
市	139	有	歴	六灯ランブ (旧新潟税関使用シャンデリア)	1基	S49.11.3	中央区柳島町2-10 歴史博物館内	東京税関・新潟市	19世紀中期	新潟市	中央区
市	140	有	歴	浦高札	2枚	S49.11.3	中央区柳島町2-10 歴史博物館内	個人・新潟市	明治2年	新潟市	中央区
市	141	有	歴	松平忠輝関係文書	2通	S49.11.3	中央区柳島町2-10 歴史博物館内	新潟市	慶長15年	新潟市	中央区
市	142	有	歴	堀直奇文書	4通	S49.11.3	中央区柳島町2-10 歴史博物館内	新潟市	元和2～3年	新潟市	中央区
市	143	有	歴	沢海日枝神社の大幟	1組	S51.6.20	江南区沢海	日枝神社・ 北方文化博物館	文政8年	横越町	江南区
市	144	有	歴	鮎屋看板良寛書刻字	5枚	S51.11.3	中央区柳島町2-10 歴史博物館内	新潟市	江戸後期	新潟市	中央区
市	145	有	歴	横越島絵図	1枚	S53.11.3	江南区割野	個人	寛永16年	新潟市	江南区
市	146	有	歴	門田ハザ並木	1個所	S58.2.18	西蒲区門田	新潟市		中之口村	西蒲区
市	147	有	歴	片柳礼三の碑(墓)	1基	S58.2.18	西蒲区羽黒1431-1	新潟市	明治4年	中之口村	西蒲区
市	148	有	歴	小杉八幡宮の大幟	1組	S63.4.12	江南区小杉	八幡宮	文政8年	横越町	江南区
市	149	有	歴	卯八郎請の御領の旗	1流	H元.7.20	西蒲区三方92 潟東歴史民俗資料館内	新潟市	宝暦3年	潟東村	西蒲区
市	150	有	歴	朝日本多家の双芳碑	1基	H5.1.20	秋葉区朝日	個人	明治40年	新津市	秋葉区
市	151	有	歴	秋葉神社の祈祥碑	1基	H5.1.20	秋葉区秋葉	秋葉神社	寛政11年	新津市	秋葉区
市	152	有	歴	笹川家平十郎宅絵図面	1枚	H55.3.1	南区味方213 曾我平澤記念館内	新潟市	不明	味方村	南区
市	153	有	歴	俳諧三祖塔	1組 (3基)	H5.7.6	秋葉区中村	個人	寛政5年	新津市	秋葉区
市	154	有	歴	北辰隊関係資料	132点	H9.3.31 H17.3.18	北区嘉山3452 北区郷土博物館内	新潟市	明治元年	豊栄市	北区

区分	No	種類	種別	名 称	員数	指定年月日	所 在 地	所有者・管理者	備 考	旧市町村名	区名
市	155	有	歴	木崎小作争議資料	675点	H9.3.31 H17.3.18	北区郷土博物館内 横井の丘ふるさと資料館内	新潟市	大正後期	豊栄市	北区
市	156	有	歴	浄福寺法宝物	26点	H11.9.29	西蒲区竹野町	浄福寺	鎌倉～安土桃山期	巻町	西蒲区
市	157	有	歴	萬巻樓の額、聯、萬巻樓記	3点	H14.9.10	秋葉区中村	個人	江戸	新津市	秋葉区
市	158	有	歴	家相図	1枚	H16.1.20	西蒲区打越甲434 澤将監の館内	個人・新潟市	江戸後期	中之口村	西蒲区
市	159	有	歴	旧鑑郷村道路元標・旧曽根村道路元標	2基	H16.6.4	西蒲区天竺堂・西蒲区曾根	新潟県	大正11年以降	西川町	西蒲区
市	160	有	歴	旧升湯村道路元標	1基	H16.6.4	西蒲区大湯	新潟市	大正11年以降	西川町	西蒲区
市	161	有	歴	曽根村道図	1軸	H16.6.4	中央区学校町通1-602-1 歴史文化課内	新潟市	昭和22年	西川町	中央区
市	162	有	歴	鑑郷村道路線調査及び鑑郷村道図 (大字別)	1式	H16.6.4	西蒲区曾根1951 西川学習館内	新潟市	大正9年	西川町	西蒲区
市	163	有	歴	曽根郷耕地整理組合第一区整理略図	1軸	H16.7.30	西蒲区曾根	個人	昭和25年	西川町	西蒲区
市	164	有	歴	横田切れの記録(腰板)	1枚	H17.2.25	西蒲区三方92 湯東歴史民俗資料館内	新潟市	明治29年	湯東村	西蒲区
市	165	有	歴	下興野新田絵図	4点	H17.3.18	北区嘉山3452 北区郷土博物館内	新潟市	享保～明治	豊栄市	北区
市	166	有	歴	綿向神社勧請石柱	1点	H17.3.18	北区内沼	内沼神社	元文元年	豊栄市	北区
市	167	無	芸	日本舞踊市山流		H15.7.16	中央区古町通	市山七十郎	江戸後期～	新潟市	中央区
市	168	無	工技	白根紋り		H5.7.14	南区白根	サークルしろね紋り	江戸後期～	白根市	南区
市	169	民	有民	民家旧宅(旧武田家住宅)	1棟	S45.4.1	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市	江戸	黒埼町	西区
市	170	民	有民	篠原幸三郎家住宅	1棟	S46.3.23	西蒲区五ヶ浜2453	新潟市	明治初期、昭和53年移築	巻町	西蒲区
市	171	民	有民	せんば	1点	S47.3.30	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市	不明	黒埼町	西区
市	172	民	有民	湊稲荷神社願懸け高麗犬	1対	S55.11.1	中央区稲荷町	湊稲荷神社	嘉永7年	新潟市	中央区
市	173	民	有民	満願寺稲架木並木	1個所	S57.2.17	秋葉区満願寺	満願寺集落26名・ 新潟市		新津市	秋葉区
市	174	民	有民	金刀比羅神社難船彫刻絵馬	1面	S59.11.3	中央区寄合町	金刀比羅神社	明治30年	新潟市	中央区
市	175	民	有民	伊多井神社の天井絵	1面	S61.5.1	西区板井	伊多井神社	慶応3年	黒埼町	西区
市	176	民	有民	のぎからくり	一括	S62.3.27	西蒲区巻甲3069-1 巻郷土資料館内	個人・新潟市	大正	巻町	西蒲区
市	177	民	有民	高札(基利支丹札)	1点	H3.4.1	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市	江戸中期	黒埼町	西区
市	178	民	有民	松前藩主薬箱	1点	H3.4.1	中央区学校町通1-602-1 歴史文化課内	新潟市	江戸	黒埼町	中央区
市	179	民	有民	畜動舎	1棟	H37.2.22	西区木場2748-1 文化財センター内	新潟市		黒埼町	西区
市	180	民	有民	角兵衛地蔵尊	2躯	H4.12.10	南区月湯	月湯地区	江戸初期	月湯村	南区
市	181	民	有民	簍箱・簍棒	1個・23本	H5.2.20	西蒲区曾根1951 西川学習館内	新潟市	万延2年	西川町	西蒲区
市	182	民	有民	福島潟民俗資料	401点	H9.3.31 H17.3.18	北区嘉山3452 北区郷土博物館内	新潟市		豊栄市	北区
市	183	民	有民	越後毒消しコレクション	一括	H11.9.29	西蒲区巻甲3069-1 巻郷土資料館内	新潟市	江戸末期～昭和期	巻町	西蒲区
市	184	民	有民	鑑潟で使用されていた漁労・狩猟用具	50点	H17.2.25	西蒲区三方92 湯東歴史民俗資料館内	新潟市	明治～昭和期	湯東村	西蒲区
市	185	民	民芸	内沼獅子舞	1	S38.1.12	北区内沼	内沼獅子舞保存会	享保期以降～	豊栄市	北区
市	186	民	民芸	内島見の神楽	1	S38.1.12	北区内島見	内島見神楽保存会	明治初期～	豊栄市	北区
市	187	民	民芸	高森の神楽	1	S38.1.12	北区高森	高森いざや神楽保存 会	宝永年間～	豊栄市	北区
市	188	民	民芸	他門の神楽	1	S38.1.12	北区葛塚	他門神楽保存会	宝暦年間～	豊栄市	北区
市	189	民	民芸	嘉山の神楽	1	S38.1.12	北区嘉山	嘉山神楽保存会	寛政から文政年間～	豊栄市	北区
市	190	民	民芸	葛塚盆踊	1	S38.1.12	北区葛塚	豊栄郷土民謡保存会	明治中期～	豊栄市	北区
市	191	民	民芸	正尺の神楽	1	S40.7.15	北区葛塚	正尺神楽保存会	天保年間～	豊栄市	北区
市	192	民	民芸	長場の神楽	1	S38.1.12	北区長場	長場神楽保存会	明治中期～	豊栄市	北区
市	193	民	民芸	和納三社神社祭礼行事	7	S43.9.12 S50.2.22 H15.3.12	西蒲区和納	和納三社神社氏子	花火・天保年間～ 榛造い・大正年間～	岩室村	西蒲区
市	194	民	民芸	竹野町神楽舞	1	S44.3.15	西蒲区竹野町	竹野町神楽舞保存会	文化から文政年間～	巻町	西蒲区
市	195	民	民芸	巻神楽舞	1	S44.3.15	西蒲区巻甲	巻神楽保存会	江戸期～	巻町	西蒲区
市	196	民	民芸	稲島神楽舞	1	S44.3.15	西蒲区稲島	稲島神楽保存会	江戸期～	巻町	西蒲区
市	197	民	民芸	松山神楽舞	1	S44.3.15	西蒲区松山	松山神楽保存会	明治39年～	巻町	西蒲区
市	198	民	民芸	松野尾神楽舞	1	S44.3.15	西蒲区松野尾	松野尾神楽舞保存会	起源不詳、昭和31年再興	巻町	西蒲区

区分	No	種類	種別	名 称	員数	指定年月日	所 在 地	所有者・管理者	備 考	旧市町村名	区名
市	199	民	民芸	棒踊り	1	S45.4.1	西区木場	黒埼地区郷土芸能保存会木場支部		黒埼町	西区
市	200	民	民芸	河井神楽舞	1	S50.4.25	西蒲区河井	河井神楽保存会	明治初期～	巻町	西蒲区
市	201	民	民芸	布日神楽舞	1	S50.4.25	西蒲区布日	布日神楽保存会	江戸～、昭和43年再興	巻町	西蒲区
市	202	民	民芸	国見神楽舞	1	S51.3.9	西蒲区国見	国見南地区自治会	江戸～、大正期復活	湯東村	西蒲区
市	203	民	民芸	湯頭神楽舞	1	S51.6.5	西蒲区湯頭	湯頭神楽舞保存会	明治初期～	巻町	西蒲区
市	204	民	民芸	小戸下組獅子踊り	1	H5.1.20	秋葉区小戸下組	小戸下組獅子保存会	文化年間～	新津市	秋葉区
市	205	民	民芸	赤鎗神楽舞	1	H5.3.30	西蒲区赤鎗	赤鎗神楽舞保存会		巻町	西蒲区
市	206	民	民芸	白根の獅子舞	1	H16.4.6	南区白根魚町	魚町神楽連	18世紀初期	白根市	南区
市	207	民	民芸	角兵衛獅子	1	H25.4.15	南区月湯	角兵衛獅子保存会	江戸中期	月湯村	南区
市	208	記	史	上城跡		S35.2.12	西蒲区竹野町	新潟市	室町	巻町	西蒲区
市	209	記	史	下城		S35.2.12	西蒲区竹野町	新潟市	室町	巻町	西蒲区
市	210	記	史	館ノ腰		S36.3.16	西蒲区馬堀	白山神社	室町	巻町	西蒲区
市	211	記	史	巻館跡		S40.3.24 S57.3.26	西蒲区巻甲3104 西蒲区巻甲3028	新潟市	室町	巻町	西蒲区
市	212	記	史	天神山城址		S43.9.12	西蒲区石瀬・岩室温泉・間瀬	個人	室町	岩室村	西蒲区
市	213	記	史	松岳山城址		S43.9.12	西蒲区岩室温泉	和納	室町	岩室村	西蒲区
市	214	記	史	樋切遺跡		S48.3.30	西蒲区五之上	個人	弥生～平安	湯東村	西蒲区
市	215	記	史	間瀬銅山跡	7	S49.6.1	西蒲区間瀬	新潟市	江戸～大正9年	岩室村	西蒲区
市	216	記	史	煮坪	1個所	S50.9.4	秋葉区草水町	個人・新潟市	慶長13年	新津市	秋葉区
市	217	記	史	幸清水	1個所	S50.12.2	秋葉区秋葉1	新潟市	文化4年	新津市	秋葉区
市	218	記	史	上ノ原遺跡		S51.3.9	西蒲区竹野町	竹野町他	縄文後期～晩期	巻町	西蒲区
市	219	記	史	山谷古墳		S60.1.30	西蒲区福井	個人	古墳前期	巻町	西蒲区
市	220	記	史	東島城跡	1個所	S60.3.4	秋葉区東島字城ヶ平1043-5	新潟市他	中世	新津市	秋葉区
市	221	記	史	桜清水	1個所	S61.1.14	秋葉区中村	那加武良神社	弘安元年	新津市	秋葉区
市	222	記	史	八幡山遺跡群	1群	H5.1.20	秋葉区古津字八幡腰ほか	新潟市	縄文～平安	新津市	秋葉区
市	223	記	史	ひさかき清水	1個所	H5.1.20	秋葉区田家	妙本寺	享保年間	新津市	秋葉区
市	224	記	史	手掘石油井戸	1個所	H5.1.20	秋葉区田家字山親割7578	新潟市	明治10年頃	新津市	秋葉区
市	225	記	史	馬堀用水遺跡		H8.11.28	西蒲区馬堀	個人	馬堀用水・長恩院石塔江戸	巻町	西蒲区
市	226	記	名	判官舟かくし	1個所	S42.3.30	西蒲区角田浜	角田浜	海蝕洞	巻町	西蒲区
市	227	記	天	水芭蕉自生地	1個所	S35.2.12	西蒲区仁箇	個人		巻町	西蒲区
市	228	記	天	行人塚の大櫓	1本	S39.7.23	西蒲区熊谷	島方自治会	樹高13.5m、胸高周囲6.4m	湯東村	西蒲区
市	229	記	天	稲島の椿谷自然林	1個所	S44.3.15	西蒲区稲島	稲島		巻町	西蒲区
市	230	記	天	稲島の大杉	1本	S44.3.15	西蒲区稲島	稲島	樹高22m、胸高周囲6m	巻町	西蒲区
市	231	記	天	ばしくるもん、つはくさ		S47.2.26	西蒲区間瀬	新潟市		岩室村	西蒲区
市	232	記	天	旧入徳館小のたぶの木	1本	S48.3.30	西蒲区峰岡	新潟市	樹高7m、胸高周囲4.1m 樹齢約200年	巻町	西蒲区
市	233	記	天	上堰湯	1個所	S49.3.23	西蒲区松野城	国有地		巻町	西蒲区
市	234	記	天	山口家の大たぶの木	1本	S49.3.23	西蒲区山口新田	個人	樹高15m、胸高周囲3m	湯東村	西蒲区
市	235	記	天	コウヤマキ(高野槇)	1本	S50.7.12	江南区藤山	個人	樹高20m、胸高周囲3.4m	横越町	江南区
市	236	記	天	スダジイ(しいの木)	1本	S51.3.9	西蒲区松野尾	仙城院	樹高10.5m、胸高周囲4.6m	巻町	西蒲区
市	237	記	天	曾根神社境内大櫓	1本	S54.2.27	西蒲区曾根	曾根神社	樹高20m、胸高周囲4.3m	西川町	西蒲区
市	238	記	天	大櫓	1本	S57.12.24	西蒲区曾根750-1 曾根小学校内	新潟市	樹高6m、胸高周囲1.8m	西川町	西蒲区
市	239	記	天	長周寺の老姫小松	1本	H17.20	西蒲区大原	長周寺	樹高4.7m、胸高周囲2m	湯東村	西蒲区
市	240	記	天	長沼家の老五葉松	1本	H17.20	西蒲区称名	個人	樹高5.6m、胸高周囲5.6m	湯東村	西蒲区
市	241	記	天	百日紅(サルズベリ)	1本	H19.8	南区大郷	個人	樹高11m、胸高周囲1.9m	白根市	南区
市	242	記	天	普談寺の大杉	1本	H5.1.20	秋葉区朝日	普談寺	樹高30m、胸高周囲5.3m	新津市	秋葉区
市	243	記	天	真柄家の大櫓	1本	H5.1.20	秋葉区柄目木	個人・新潟市	樹高16m、胸高周囲7.8m	新津市	秋葉区

区分	No.	種類	種別	名 称	員数	指定年月日	所 在 地	所有者・管理者	備 考	旧市町村名	区名
市	244	記	天	福王寺の大赤樫	1本	H5.1.20	秋葉区山谷町	福王寺	樹高15m、胸高周囲29m	新津市	秋葉区
市	245	記	天	小戸の大花梨	1本	H5.1.20	秋葉区小戸下組	個人	樹高12m、胸高周囲1.8m	新津市	秋葉区
市	246	記	天	北潟の大譲葉	1本	H5.1.20	秋葉区北潟	個人	樹高13m、胸高周囲2.1m	新津市	秋葉区
市	247	記	天	子成場柿	1本	H5.1.20	秋葉区浦興野	個人	樹高11m、胸高周囲1.7m	新津市	秋葉区
市	248	記	天	石崎家の紅梅	1本	H5.1.20	秋葉区新津本町	個人	樹高9m、胸高周囲2.4m	新津市	秋葉区
市	249	記	天	犬四手叢林	1個所	H5.1.20	秋葉区金津	佐久那殿神社	樹齢約100～200年	新津市	秋葉区
市	250	記	天	椿林	1個所	H5.1.20	秋葉区朝日	個人	樹齢50～300年	新津市	秋葉区
市	251	記	天	らかんまき 外	5本	H6.4.1	江南区荻曾根	個人	樹高9m(らかんまき)	亀田町	江南区
市	252	記	天	つばき	1本	H6.4.1	江南区袋津	個人	胸高周囲1.5m	亀田町	江南区
市	253	記	天	かや	1本	H6.4.1	江南区城山	個人	胸高周囲1.9m	亀田町	江南区
市	254	記	天	大久保の大ケヤキ	1本	H12.5.26	北区大久保	神明社・大久保自治会	樹高24m、胸高周囲6.5m	豊栄市	北区
市	255	記	天	お杉	1本	H15.11.12	西蒲区石瀬	大字石瀬	樹高22m、胸高周囲6.4m	岩室村	西蒲区
市	256	記	天	大杉	1本	H16.8.11	西蒲区樋曾	日吉神社	樹高36m、胸高周囲6.1m	岩室村	西蒲区
市	257	記	天	大榎	1本	H16.8.11	西蒲区石瀬	石瀬神社	樹高42m、胸高周囲5.2m	岩室村	西蒲区
市	258	記	天	羅漢楨	1本	H16.8.11	西蒲区石瀬	青龍寺	樹高11.5m、胸高周囲2.7m	岩室村	西蒲区
市	259	記	天	銀木犀	1本	H16.8.11	西蒲区石瀬	種月寺	樹高7m、胸高周囲1.5m	岩室村	西蒲区
市	260	記	天	多宝山の樺	1本	H16.8.11	西蒲区石瀬	個人	樹高20m、胸高周囲2.9m	岩室村	西蒲区
市	261	記	天	ご神木櫨	1本	H16.8.11	西蒲区和納	八幡神社(三社神社)	樹高8.5m、胸高周囲7.4m	岩室村	西蒲区

凡 例 「種別欄」は、() 内の略号で表記。
有形文化財 建造物 (建)、絵画 (絵)、彫刻 (彫)、工芸品 (工)、書跡・典籍 (書)、古文書 (古)、考古資料 (考)、歴史資料 (歴)
無形文化財 芸能 (芸)、工芸技術 (工技)
民俗文化財 有形民俗文化財 (有民)、無形民俗文化財の民俗芸能 (民芸)、無形民俗文化財の風俗慣習 (風)、無形民俗文化財の民俗技術 (民技)
記 念 物 史跡 (史)、名勝 (名)、天然記念物 (天)

(2) 新潟市所在の国登録文化財一覧表（平成31年3月31日現在）

No.	名 称	員数	登録年月日	所 在 地	所有者・管理者	備 考	旧市町村名	区 名
1	新津記念館	1棟	H10.4.21	中央区旭町通	公益財団法人新津記念館	昭和13年	新潟市	中央区
2	北方文化博物館 主屋・大広間ほか	26棟	H12.4.28	江南区沢海	一般財団法人北方文化博物館	明治20年	横越町	江南区
3	太古山日長堂 主屋・仏蔵	2棟	H12.4.28	北区新崎	一般財団法人太古山日長堂	18世紀中期	新潟市	北区
4	佐野商店 店舗兼住宅	1棟	H12.4.28	中央区沼垂東	個人	昭和12年	新潟市	中央区
5	二宮家住宅 主屋・農舎	2棟	H12.4.28	江南区俵柳	個人	大正7年	新潟市	江南区
6	斎藤家住宅 主屋・土蔵	2棟	H12.4.28	中央区関屋本村町	株式会社斎藤不動産	明治初期	新潟市	中央区
7	樋木酒造 店舗兼主屋・西・東酒蔵	3棟	H12.4.28	西区内野町	公益財団法人鶴友会	20世紀初期	新潟市	西区
8	木揚場教会	1棟	H12.4.28	中央区礎町通	木揚場教会	大正15年	新潟市	中央区
9	行形亭 主屋ほか	10棟	H12.4.28	中央区西大畑町	株式会社行形亭	19世紀中期	新潟市	中央区
10	鍋茶屋 主屋ほか	7棟	H12.4.28	中央区東堀通	合資会社鍋茶屋	明治43年	新潟市	中央区
11	燕喜館（旧斎藤家住宅）主屋	1棟	H12.4.28	中央区一番堀通町1-2	新潟市	明治41年	新潟市	中央区
12	北方文化博物館新潟分館 主屋・洋館ほか	7棟	H12.4.28	中央区南浜通	一般財団法人北方文化博物館	明治28年頃	新潟市	中央区
13	諸橋家住宅 主屋・土蔵	2棟	H13.11.20	江南区茗荷谷	個人	大正10年頃	新潟市	江南区
14	飯田家住宅土蔵	1棟	H14.8.21	西区内野町	個人	明治22年	新潟市	西区
15	吉田家住宅 主屋・座敷棟・土蔵	3棟	H15.1.31	秋葉区大鹿	個人	明治16年	新津市	秋葉区
16	大橋屋 主屋及び土蔵	1棟	H15.7.1	中央区本町通	個人	昭和10年	新潟市	中央区
17	亀田町上水道高架水槽	1棟	H15.7.1	江南区亀田水道町2-4-3	新潟市	昭和8年	亀田町	江南区
18	高島屋 主屋・土蔵・旧米蔵	3棟	H16.7.23	西蒲区岩室温泉	個人	宝暦5年	岩室村	西蒲区
19	新潟大学 旭町学術資料展示館ほか	2棟	H17.11.10	中央区旭町通	国立大学法人新潟大学	昭和4年	新潟市	中央区
20	旧第四銀行住吉町支店	1棟	H17.11.10	中央区柳島町2-10	新潟市	昭和2年	新潟市	中央区
21	妙光寺 三重小塔・山門・鐘楼	3棟	H18.3.2	西蒲区角田浜	妙光寺	18世紀後期	巻町	西蒲区
22	小林家住宅 主屋	1棟	H18.3.27	中央区南昆沙門町	個人	昭和13年	新潟市	中央区
23	石本家住宅 主屋ほか	6棟	H19.12.5	江南区東本町	個人	明治34年～昭和初期	亀田町	江南区
24	内島見 観音堂・仁王堂	2棟	H19.12.5	北区内島見	宗教法人養福寺	元治2年・明治34年	豊栄市	北区
25	石動神社 本殿・拝殿	2棟	H20.7.8	北区白新町	宗教法人石動神社	寛政8年	豊栄市	北区
26	古峯神社 本殿	1棟	H20.7.8	北区白新町	宗教法人石動神社	天保8年	豊栄市	北区
27	稲荷神社 本殿・拝殿及び幣殿・神輿庫	3棟	H20.7.8	北区葛塚	宗教法人稲荷神社	文化12年	豊栄市	北区
28	開市神社 拝殿	1棟	H20.7.8	北区葛塚	宗教法人稲荷神社	明治4年	豊栄市	北区
29	原家住宅 主屋ほか	10棟	H28.8.1	江南区二本木	個人	明治35年～大正3年頃	横越町	江南区
30	敬覚寺本堂	1棟	H28.8.1	江南区酒屋町	宗教法人敬覚寺	大正8年	新潟市	江南区
31	小松屋旅館 本館・広間棟・表座敷棟・奥座敷棟	4棟	H28.8.1	西蒲区岩室温泉	個人	大正3年～昭和32年	岩室村	西蒲区
32	梅嶋家住宅 主屋	1棟	H29.10.27	中央区四ッ屋町	個人	昭和元年頃	新潟市	中央区
33	旧白根配水塔	1棟	H30.5.10	南区上下諏訪木字川原	新潟市	昭和8年	白根市	南区
34	中原家住宅 主屋ほか	5棟	H30.5.10	西区赤塚	個人	万延元年～昭和10年頃	新潟市	西区

2 区別・ジャンル別文化財件数表（平成31年3月31日現在）

（1）区別

区名		主な旧市町村・地区	国指定	県指定	市指定	指定計	国登録	合計
1	北区	豊栄市・北地区	2	1	25	28	6	34
2	東区	中地区・東地区・石山地区	0	1	0	1	0	1
3	中央区	中央地区・東地区・南地区	11	15	27	53	13	66
4	江南区	亀田町・横越町・石山地区・南地区	1	3	17	21	7	28
5	秋葉区	新津市・小須戸町	3	7	37	47	1	48
6	南区	白根市・味方村・月潟村	2	2	15	19	1	20
7	西区	黒埼町・坂井輪地区・西地区	0	6	29	35	3	38
8	西蒲区	巻町・西川町・潟東村・中之口村・岩室村	2	5	111	118	3	121
合 計			21	40	261	322	34	356

（2）ジャンル別

種 別		国指定	県指定	市指定	指定計	国登録	合計	
有形	建 造 物	5	1	16	22	34	56	
	絵 画	1	3	18	22	0	22	
	彫 刻	1	5	15	21	0	21	
	工 芸 品	1	1	11	13	0	13	
	書 跡 ・ 典 籍	1	3	29	33	0	33	
	古 文 書	0	3	21	24	0	24	
	考 古 資 料	1	10	25	36	0	36	
	歴 史 資 料	0	5	31	36	0	36	
無形	芸 能	0	0	1	1	－	1	
	工 芸 技 術	0	0	1	1	－	1	
民 俗	有 形 民 俗		1	1	16	18	0	18
	無形民俗	風 俗 慣 習	0	1	0	1	0	1
		民 俗 芸 能	0	0	23	23	0	23
		民 俗 技 術	0	0	0	0	0	0
記念物	史 跡		4	2	18	24	0	24
	名 勝		2	1	1	4	0	4
	天 然 記 念 物		4	4	35	43	0	43
合計		21	40	261	322	34	356	

平成30年度 新潟市文化財調査概要

令和元年 9 月発行 (非売品)

編集・発行 新潟市教育委員会
(新潟市文化スポーツ部歴史文化課)
〒951-8550
新潟市中央区学校町通一番町602番地 1
TEL (025) 228-1000 (代表)

印刷 有限会社スタッフラン
〒950-0211
新潟市江南区横越川根町 3 丁目13-23
TEL (025) 385-5291